

JSRECCE
Early Childhood Care and Education

課題研究委員会

Report 2022

コロナ下における保育と子どもの育ちを考えるⅠ
—予備調査から明らかになったこと—



一般社団法人 日本保育学会



企画主旨

第74回大会において、新型コロナウイルス下における保育実践の工夫と課題についての質的研究の成果を発表した。活発な議論の中では、日本保育学会としての社会貢献と情報発信を期待する趣旨の意見もいただいた。そこで、課題研究委員会では「コロナ下における保育と子どもの育ちに関する調査」を実施し、子どもや保育実践において将来に渡って懸念される問題や解決・改善方法、実践により定着してきた事項等について明らかにし、保育実践や運営の改善に生かす方略を提案しようと考えた。今回は予備調査結果についての報告を中心に議論を進める。指定討論者には戸田雅美副会長（東京家政大学）をお迎えすることができた。調査結果は保育学会で共有し、各委員会と連携した取り組みや会員による研究の発展に繋がることを期待している。

2023年1月

日本保育学会課題研究委員会委員長
佐々木 晃

※なお本報告書は、2022年5月15日に開催された、日本保育学会第75回大会学会企画課題研究委員会シンポジウムの発表資料を再構成したものである。

目次

企画主旨	1
佐々木 晃（鳴門教育大学・課題研究委員会委員長）	
1 子ども達の育ちの様子と園の取組について	3
新井美保子（愛知教育大学・課題研究委員）	
2 保護者対応や地域との関わりおよび行事等の状況について	11
三宅 茂夫（神戸女子大学・課題研究委員）	
3 職員間の関わり・職員対応について	28
花輪 充（東京家政大学・課題研究委員）	
4 子どもの育ちを保障するためのICT等の活用，行政との連携	39
西山 修（岡山大学・課題研究委員）	
資料	47

1 子ども達の育ちの様子と園の取組について

新井美保子

この調査は 2021 年 9～10 月、Google フォームにて実施され、12 都府県の保育者から回答を得た。有効回答は 213 園（国公立幼 63、私立幼 15、公立保 13、私立保 19、公立こ 72、私立こ 27）であった。

「(1) コロナ下の保育の中で気になるお子さんの様子」と「(2) コロナ下の保育の中で、先生方が今後の子どもの育ちで不安に思うこと」について、5 領域を踏まえ各 21 項目設定し、4 件法（①感じない、②あまり感じない、③感じる、④とても感じる）で回答を求めた。(1) 気になる様子で④が特に高かった項目は、「高齢者や地域の人々との交流の減少」(66.5%)、「小学校との交流や合同活動等の連携の困難さ」(57.1%)の他、「園外保育等が減り、自然体験や社会体験の機会が減少」(31.0%)、「みんなで歌ったり、踊ったり、楽器を使うなどの表現する機会の減少」(16.4%)、「マスクの着用で、咀嚼など乳幼児の食育が困難」(13.8%)と続いた。(2) 育ちで不安に思うことは、③④合計で「高齢者や地域の人々との交流機会や公共施設等の使用機会が減少し、社会性や公共性の発達が不安」(89.2%)、「小学校生活への適応が不安」(78.7%)、「会食の楽しさや望ましい食習慣の形成が不安」(85.9%)等の他、「微妙な表情が伝わりにくく言語感覚の発達が不安」(74.5%)、「直接体験の不足で優しさやたくましさ、確かな知識、感覚等が身に付いているか不安」(73.6%)、「発音や発声の発達が不安」(72.2%)等、言葉や感性、感覚の発達を懸念する回答が高くなった。これらに対し「子どもの遊びや活動について努力・工夫していること」は、「行事中心の保育構成から子ども主体の活動展開へと変え、好きな遊びやプロジェクト活動が増加」(82.9%)、「戸外で十分に体を動かす活動を意識的に導入」(80.2%)が高くなっている。

コロナ下における保育と子どもの育ちを考える I
—予備調査から明らかになったこと—

(1) 子ども達の育ちの様子と 園の取組について

課題研究委員
新井 美保子 (愛知教育大学)

1

報告内容

- I 調査の概要
- II 園のお子さん達の様子について
 - ・コロナ下の保育の中で、**気になるお子さんの様子**
 - ・コロナ下の保育の中で、先生方が**今後の子どもの育ちで不安に思うこと**
- III 子どもの遊びや活動、生活環境等や遊び環境等について



2

I 予備調査の概要

1. 調査時期と方法

2021年 9～10月、Google フォーム又は質問紙への回答により実施

2. 調査対象

対象・・・関東～九州の全12都府県の保育者。有効回答者数:213名

職位・・・園長・施設長(46.5%)、主任・副園長(23.2%)、担任保育者等(30.3%)

所属・・・国公立幼稚園63名、私立幼稚園15名、公立保育所13名、私立保育所19名

公立認定こども園72名、私立認定こども園27名、無回答4名

園の規模(総園児数)・・・99名以下(40.7%)、100～199名(52.6%)、

200名以上(6.7%)



3

課題研究委員会企画シンポジウム資料・新井美保子 (2022.5.15)

II 園のお子さん達の様子について

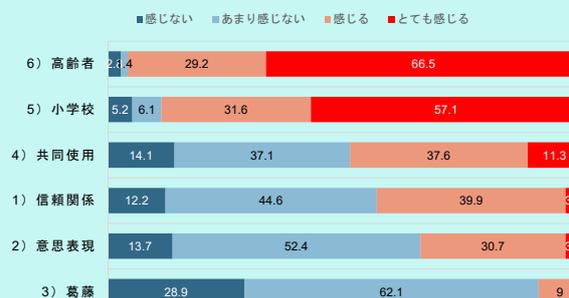
課題研究委員会企画シンポジウム資料・新井美保子 (2022.5.15)

1. コロナ下の保育の中で、気になる子どもの様子 (=事実・実態)

(1) 心身の健康に関すること



(2) 人との関わりに関すること



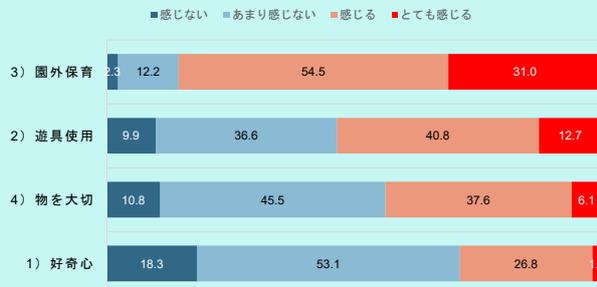
・5項目とも問題点を感じるという回答は全体的に多くない。
 ・「3) マスクの着用で咀嚼など乳幼児の食育が難しくなった」が5割弱とやや多い。

・「6) 高齢者をはじめ地域の人々との交流」や「5) 小学校との交流・連携」の減少を指摘する回答が9割程度と非常に多い。
 ・共同活動・用具の共同使用や、保育者との信頼関係構築にも半数程度と課題が見られる。

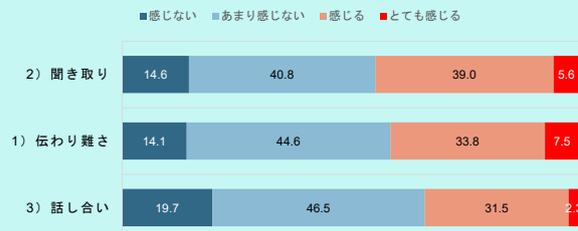
4

1. コロナ下の保育の中で、気になる子どもの様子（＝事実・実態）

(3) 身近な環境との関わりに関すること



(4) 言葉の獲得に関すること



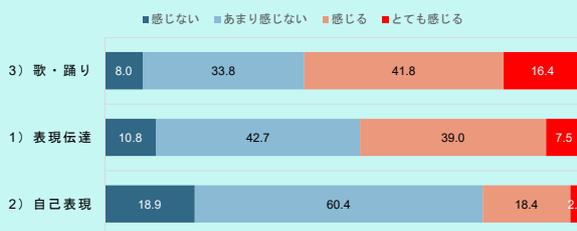
・「3) 園外保育などが減り、自然体験や社会体験の機会が減った」の指摘が85%と多い。
 ・「様々な遊具・用具・施設使用」の不十分さや、「使い捨て物品が増えた」ことの指摘も半数程度とやや多い。

・問題点を特に感じる回答は多くはない。
 ・「2) 人の話などの聞き取りや理解ができなくなった」「1) 自分の気持ちを言葉で表現する時に伝わり難さを感じる」指摘が4割程度とやや多い。



1. コロナ下の保育の中で、気になる子どもの様子（＝事実・実態）

(5) 感性と表現に関すること



・「3) みんなで歌ったり、踊ったり、楽器を使うなどして表現する機会が少なくなった」との指摘が6割弱。
 ・「1) 子ども同士、微妙な表情やニュアンスがわかりにくく、自己表現が伝わりにくい」指摘も約半数。

《自由記述から》(回答者:62名)

・手洗い・消毒・マスク着用等の感染予防に過敏になっている。汚れることを嫌う。感染を気にして人に触れられない。等(9名)

・マスク着用が不快、保育士がマスクを外したり違う色のマスクをすると乳児が泣く。等(8名)

・食事時間が集中して短くなり、楽しい雰囲気ではなくなった。(6名)

・異年齢交流が減少(6名)

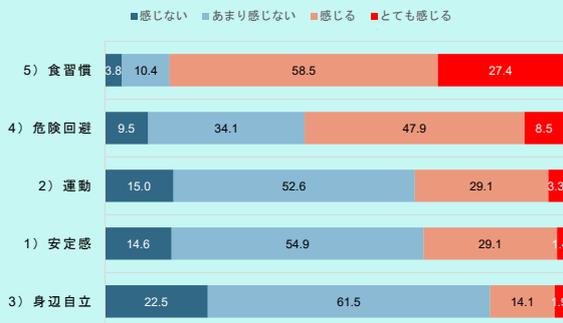
・触れ合ったり大声を出したりして話したり笑い合ったりする姿があまり見られない。多人数の友達との活動や表現を苦手を感じる子が増えた。入園して初めて家族以外の人と関わる幼児が増えた。等(10名)

・登園を嫌がる・不安な様子・休みがち、イライラする、些細なことにも敏感、個別の援助が必要、大人の指示を待つ、等(12名)

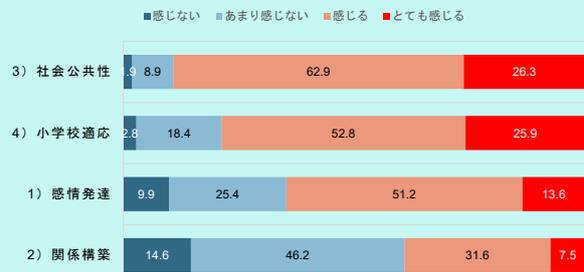


2. コロナ下の保育の中で、先生方が今後の子どもの育ちで不安に思うこと

(1) 心身の健康に関すること



(2) 人との関わりに関すること



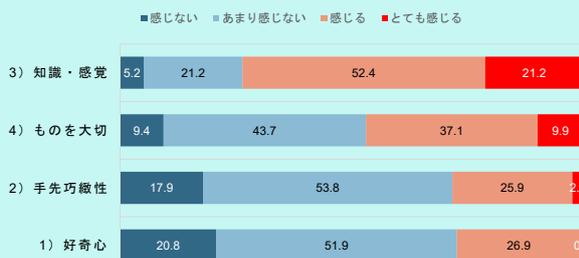
・「5) 会食の楽しさや望ましい食習慣の形成が不安」が86%と特に多い。
 ・「免疫力の低下や危険回避能力の発達が不安」も5割以上とやや多い。

・「3) 高齢者や地域の人々等との交流の機会や公共施設や共同の遊具・用具の使用の機会が減り、社会性や公共性の発達が不安」が9割、「4) 小学校との連携が持ちにくくなり、小学校生活への適応について不安」が約8割と特に多い。
 ・「1) マスクやシールドなどで表情が伝わり難いことやスキンシップが持ちにくいことから、情緒や感情の発達が不安」も65%と多い。

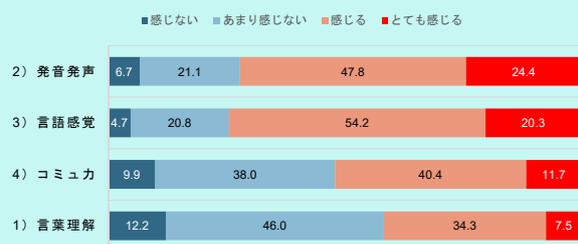
課題研究委員会企画シンポジウム資料・新井美保子 (2022.5.15)

2. コロナ下の保育の中で、先生方が今後の子どもの育ちで不安に思うこと

(3) 身近な環境との関わりに関すること



(4) 言葉の獲得に関すること



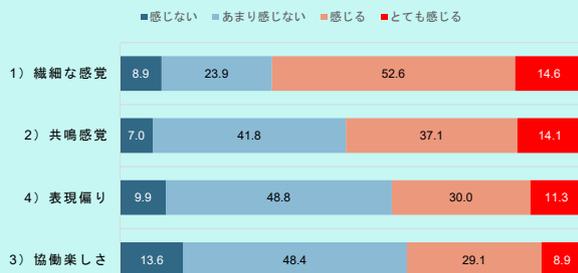
・「自然体験や社会体験が減った一方で、コンピューターゲームやスマホ等のICT機器の使用が増えたため、直接体験の不足で優しさやたくましさ、確かな知識、感覚等が身についているか不安」が約7割と多い。
 ・「4) 感染予防のため、直接手で触れない習慣や使い捨ての物品が増えたため、ものを大切にする気持ちや繊細な心情が育っているか不安」も約半数とやや多い。

・「3) 微妙な表情が伝わりにくく、言葉のニュアンスなど言語感覚の発達が不安」や「2) 特に乳児などは、マスクで保育者の口の動かし方が見づらいため、発音や発声の発達が不安」がともに7割以上と多い。
 ・「4) 自己主張や人間関係の調整力などのコミュニケーション能力の発達が不安」も5割に達している。

課題研究委員会企画シンポジウム資料・新井美保子 (2022.5.15)

2. コロナ下の保育の中で、先生方が今後の子どもの育ちで不安に思うこと

(5) 感性と表現に関すること



・「1) 人との繊細な表現に気づいたり感じたりする感覚の発達が不安」が67%と多い。
 ・「2) みんなで歌ったり、踊ったり、演奏したり、演じたりするなど、人と共鳴する感覚や楽しさが獲得できているか不安」も5割に達している。

《自由記述から》(回答者:34名)

・マスクで人の表情が見えにくいため、他人の表情や気持ちを読み取る力の育成が難しい。(7名)

・友達と思いっきり笑うなど、心と心が十分に触れ合うことや、一緒に活動する等の人との関わりの育ちが不安。(6名)

・動画視聴やゲーム等で遊ぶ時間が増え、外出の減少や生活習慣への影響が不安。(5名)

・声を出す、歌う等の活動ができないため、声の出し方、発声に関して経験が少ないこと。言葉の発音が正確かどうか判断できないこと。(2名)

・運動能力の低下、経験・体験不足。必要以上の感染への不安が子どもの経験不足につながってしまうこと。(5名)



9

課題研究委員会企画シンポジウム資料・新井美保子(2022.5.15)

3. コロナ下の保育における子どもの様子と今後の育ちの課題

気になる子どもの様子

- 地域の人々との交流の減少
- 小学校との交流・連携の減少
- 自然体験・社会体験の減少
- みんなで歌う・踊る・楽器を使う等の表現機会の減少

- ▲ 咀嚼などの食育の困難さ
- ▲ 保育者との信頼関係が築き難い
- ▲ 人の話の理解や聞き取りの難しさ
- ▲ 自己表現(言葉、表情等)が伝わり難い
- ▲ 遊具・用具・施設の使用の困難さ
- ▲ 使い捨て物品が増加



子どもの育ちに関する課題

- ・ 社会性・公共性の発達
- ・ 小学校生活への適応
- ・ 直接体験、確かな知識・感覚
- ・ 人と共鳴する感覚や楽しさの獲得
- ・ 情緒の安定や感情の発達
- ・ 会食の楽しさや食習慣の形成
- ・ 免疫力や危険回避能力の発達
- ・ 自己主張や人間関係の調整力
- ・ コミュニケーション能力
- ・ 繊細な表現に気づいたり感じたりする感覚
- ・ 言語感覚の発達
- ・ 発音や発声の発達



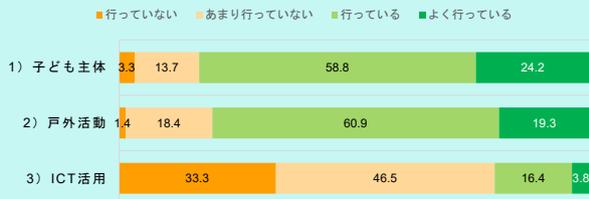
10

課題研究委員会企画シンポジウム資料・新井美保子(2022.5.15)

Ⅲ 子どもの遊びや活動、生活環境等や遊び環境等について

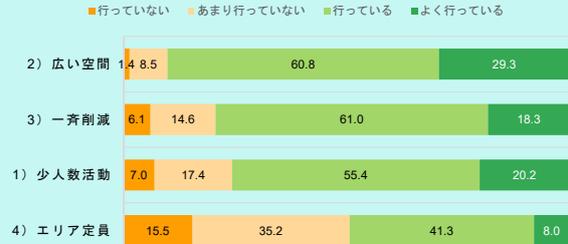
1. 子どもの遊びや活動について、努力・工夫していること

(1) カリキュラムについて



・保育上の工夫として「1)行事中心の保育構成から、子ども主体の活動展開へと変更。好きな遊びやプロジェクト活動を増加」や、「2)運動不足・運動能力低下対策として戸外で十分に身体を動かす活動を意識的に導入」との回答が8割に達している。

(2) 密集回避・飛沫感染防止策



・感染防止として「2)園内の広い空間を利用した活動」や「1)小グループ・少人数活動」を増やし、「3)遊びの拠点を分散させ、集団一斉活動を削減した」とする回答が75%以上に及んでいる。



11

課題研究委員会企画シンポジウム資料・新井美保子 (2022.5.15)

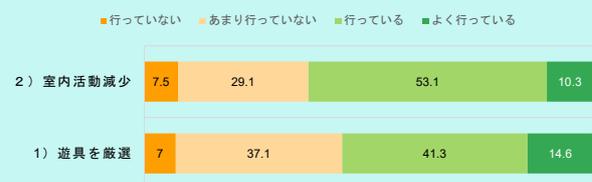
1. 子どもの遊びや活動について、努力・工夫していること

(3) 昼食時の飛沫感染防止



・昼食時の飛沫感染防止策としては「7)黙食の導入」8割弱、「8)透明パーテーションの設置」65%に続き、「9)一方向に着席して食事」も57%と過半数に及んでいる。

(4) 消毒・換気



・換気対策としては「2)室内での活動を減少させ、戸外活動を工夫」が63%。
・消毒対策としては「1)おもちゃや遊具を厳選(例えば布製品を減らし他の素材へ転換等)」が56%に及んでいる。



12

課題研究委員会企画シンポジウム資料・新井美保子 (2022.5.15)

2. 配置・補充してほしい人材は？

〔複数回答〕

1位	保育者（保育士、保育教諭等）	67.5%
〃	保健・衛生面での専門職員（看護師等）	67.5%
3位	事務職員	42.2%
4位	清掃員、用務員、カウンセラー、 子育て支援担当保育者、保育補助（無資格）、 特別支援教育支援員・担任補助、等	0.5%

・園内の広い空間や戸外を利用した活動や、遊びの拠点を分散させた活動、小グループ・少人数での活動を増やすと、担任保育者1人では保育が難しいのではないかな。

・最新の効果的な感染予防対策を実施していくために、専門職員として看護師・養護教諭等の配置が求められているのではないかな。

・行政からの通知文書を整理し、家庭への連絡等も迅速・円滑に実施していくためにも、事務職員の配置が求められているのではないかな。



課題研究委員会企画シンポジウム資料・新井美保子（2022.5.15）

13

課題研究委員会企画シンポジウム資料・新井美保子（2022.5.15）

まとめ ～子どもの育ちを保障するために

1. 園外のひと・もの・ことを中心に、直接体験が不足

⇒自然体験、社会体験、年長者との関わり等を意識的に導入。

子どもの好奇心・探究心、社会性・公共性などを育成。

2. 子ども同士が夢中になって関わることや、自己表現、相手の感情の理解などが不足。マスクで表情がわからない。

⇒人への親近感や信頼感の育成につながる遊びや援助の工夫を。

例えば、お気に入りの友達と十分に遊べる時間や場所の保障を。

3. 情緒の不安定さ、集団に入ることの不安感・緊張感、感染に対する警戒感

⇒ 家庭と連携しながら、園生活の楽しさ・必要性を実感できる工夫を。

合理的に感染対策を実施し、不安感を煽らない。

◎保育スタッフの拡充が必要！

・・・保育者、保健・衛生面の専門職員、事務職員



14

2 保護者対応や地域との関わりおよび行事について

三宅 茂夫

保護者との関わりについて、時間的变化は対面では短くなり、対面以外は変わらないとの回答が多かった。この違いは、対面での関わりの制限を間接的方法等の工夫により補完された結果と考えられる。内容的変化では、量的・質的な減少・低下と量的減少、質的高まりが同様の割合であったが、量的減少は顕著でそれを質的高まりで補おうとする取組の成果と考えられる。家庭訪問は中止・無期延期の割合が高かったが、時期や方法を変え直接訪問以外で実施されており、家庭との連携を大切にする考えの表れと捉えられる。保護者会・PTA活動も同様な意図により、時期や方法を変えて実施されている。保護者会や懇談会なども分散・少人数、合理的な配慮により実施されている。しかしながら、保護者との連携では保護者間の関係づくりや詳細な情報共有の困難さなどの問題が生じた。地域との関わりの機会は大幅に減少したものの関係性は変わらないとの回答も多く、これまでの関係性が確かなものであったことの証と思われる。これらの関係性の維持は、登園時間や方法、人数などの配慮や園の感染対策・状況に関する積極的な情報発信、徹底した感染対策をした上での地域との関わりの継続などの園の努力と工夫の結果によるものと言える。行事等の実施では、保育の本分を大切に、可能な限り中止は避け、内容や方法、時期の変更、カリキュラムレベルで行事を見直し、精選して実施している。一つ一つの行事を丁寧に、従来の内容や方法で実施するもの、内容や方法、時期を変更して実施するもの、さらに実施しないものを選び分け、実施する（しない）ための検討を重ねてきたことが想像できる。特に多くの人が集う行事の実施については、多大なご苦労が拝察される。

日本保育学会 第75回大会 課題研究会シンポジウム

研究報告

コロナ下における保育と子どもの育ちを考える I
—予備調査から明らかになったこと—

保護者対応や地域との関わりおよび
行事等の状況について

2022.5.15

課題研究委員 神戸女子大学 三宅茂夫

目 次

IV 保護者対応や地域との関わりについて

- 1 保護者との関りについて
- 2 地域とのかかわりについて

V 行事等について

- 1 行事の実施について

まとめ

今後検討すべき事項

IV 保護者対応や地域との関わりについて

1 保護者との関りについて

(1)コロナ下での保護者とかかわる時間的な変化について(表IV-1・IV-2参照)

- ❖ 対面のみ:
「とても短くなった」(13.3%)+「短くなった」(53.8%)⇒67.1%〈短くなった〉
「変わらない」(31.9%)
- ❖ 対面・オンライン等:
「とても短くなった」(2.0%)+「短くなった」(24.9%)⇒26.9%〈短くなった〉
「変わらない」(66.3%)

- 対面での関わりの制限を、間接的な方法の工夫により時間的マイナスを補完

(2)コロナ下による保護者とかかわりの内容的な変化について(表IV-3参照)

- ❖ 「変わらない」(41.5%)、①「量的にも、質的にも減少・低下した」(27.8%)、
②「量的には減少したが、質的には高まった」(25.9%)
- ❖ ①+②⇒量的減少(53.7%)
- ❖ 「その他」:「量的には減ったが、質は落とさないようお便りなどを出す等、直接的なかかわりを補う対応を工夫」

- 工夫により質的な減少・低下を補完する配慮
- 質的な「低下」と「高まり」はほぼ拮抗←違いを生む要因から重要な示唆?(今後の調査に)。

□ 保護者とのかかわりの内容的変化と時間的变化の連関(表Ⅳ-4参照)

- ❖ 内容的変化と時間的变化のクロス集計
- ❖ 内容的変化ならびに時間的变化ともに「変わらない」⇒37.8%
- ❖ 「質的にも、量的にも減少・低下した」&時間的「短くなった」(13.2%) + 「質的にも、量的にも減少・低下した」&時間的「変わらない」(11.8%) ⇒25.0%<質的にも、量的にも減少・低下>
- ❖ 「量的には減少したが、質的には高まった」&時間的「変わらない」(13.2%)

- 工夫により質的にも時間的にも一定水準を維持
- 時間的要因よりも、コロナ下の状況が内容的なマイナス面やプラス面に影響

(3)家庭訪問の実施状況について(表Ⅳ-5参照)

- ❖ 「これまで実施していない」(28.9%)、「中止・無期延期」(37.0%)
- ❖ 「通常通り実施」(3.8%)+「時期を変えて実施(直接訪問)」(1.8%)+「時期や方法を変えて実施(直接訪問以外)」(22.3%) ⇒28.0%<何らかの方法で実施>
- ❖ 「その他」:個人面談への切替、オンラインやメール、電話等の利用、ドアホン越しの訪問、お便りなどのポスティングなどの工夫により実施

- 何らかの方法で実施するなど、家庭との連携を大切にしようとする姿勢

(4)保護者会・PTA活動の実施状況について(表Ⅳ-6参照)

- ❖ 「通常通り実施」(8.9%)+「時期を変えて実施(直接訪問)」(33.3%)+
「時期や方法を変えて実施(直接訪問以外)」(37.1%)
⇒79.3%<実施>
- ❖ 「その他」:「紙面での実施」や「時期や方法の変更」、「直接訪問」等
それ以外の方法により多くの園で実施、「保護者会は自粛し、PTA活動
は縮小しつつ内容ややり方を工夫して実施」

- さまざまな方法で多くの園が実施、家庭との連携を大切にしようとする
姿勢
- 通常の保護者会やPTA活動は縮小傾向であったが、子どもと保護者が
参加するものは優先して実施

(5)コロナ下における保護者とのかかわりでの工夫について(表Ⅳ-7参照)

(複数回答可)

- ❖ 回答のあった園のなかで、「保育参観の分散・少人数による実施」(78.0%)、
「『滞在時間を短く』『できるだけ話を最小限に』するなど合理的なかかわり
への配慮」(62.0%)、「気持ちに寄り添った懇談の機会確保のため、
面談形式による懇談会の実施」(33.8%)⇒多くの園で実施
- ❖ 「その他」:「子どもの活動の様子や育ちを撮影しコメントを添えて掲示」
「ドキュメンテーション、ブログでの子どもの育ちの発信」「園独自の
動画配信システムの導入」「書面や画像でのわかりやすい知らせ方の
工夫」「保護者への手紙・メールによる丁寧な説明と協力への感謝」
「通常の保護者の送迎時の玄関外での応対を、緊急事態宣言解除以降は
希望者には園内で個人面談を実施」など

- 保育参加や面談形式での懇談会の実施、合理的な配慮、これまでの
かかわりの見直しやICTの活用などにより保護者との関係を維持

(6)コロナ下における保護者との連携の状況について(表Ⅳ-8参照)

(複数回答可)

- ❖ 「これまでと変わらない」(34.7%)
「保護者間の関係づくりが難しくなった」(33.8%) + 「子どもの園や家庭での様子、子どもの育ちの状況について、互いの詳細な情報共有が難しくなった」(30.0%) ⇒ 63.8% <難しくなった>
- ❖ 「その他」: 「対面での会話は減ったが、スマホのアプリを使用し毎日の園での活動などをドキュメンテーションとして配信したり、動画(保育・食育・保健)などを配信したりして、これまで以上に園での様子を伝える機会や手段を増やした。一方的な配信となるため配信後(行事等)にアンケートをとり、疑問に応えた」など

- 園の多大な努力にも拘わらず、保護者間の関係構築や園と家庭との子どもに関する詳細な情報の共有などに困難さ
- 保護者との詳細な情報共有のための努力

2 地域とのかかわりについて

(7)地域とのかかわりの機会の変化について(表Ⅳ-9参照)

- ❖ 「減少した」(44.3%) + 「とても減少した」(51.4%)
⇒ 95.7% <減少>

- 対面での保護者との関りの機会が減少したように、地域とのかかわりはさらに減少

(8)地域の方々との関係性の変化について(表IV-10参照)

- ❖ 「変わらない」(87.3%)
- ❖ 「その他」:「子どもたちを離れて見守ってくださっている」
- ❖ 「その他」:「今年度の運動会の練習で、音の大きさについて初めて苦情の電話があった。リモートワークが関係しているのかもしれない。」

- 機会は減少しても、おおむねこれまでの関係性を維持
 - ✓ それまでに築かれてきた関係のゆるぎなさ
- 地域住民の就業環境の変化による新たな配慮の必要性

(9)変化の理由について(表IV-11参照)

- ❖ 「行事や活動の縮小などにより、園が地域からの支援やかかわりを制限した」(60.4%)
- ❖ 「これまでと変わらない」(30.5%)
- ❖ 「その他」:「国や県の指導」「相手側の遠慮」
- ❖ 「その他」:「かかわりは減ったものの、日常的な挨拶等を重視したことで関係性は変わっていないと感じる。」「今は十分に交流できないことを地域の方に理解してもらっているので、収束したらいつでも活動を再開できる。」

- おもに機会(頻度や内容)の変化
- 変化の理由は、行政からの指導や相手への遠慮
- これまでの関係性の構築からの安心感と自信

(10)コロナ下における地域とのかかわりで工夫した点について(表Ⅳ-12参照)

- ❖ 回答のあった園のなかで、「登園時間や方法、人数などについて配慮した」(26.3%)、「園の感染対策や感染状況を積極的に地域へ情報発信を行った」(18.7%)、「感染対策を徹底した上で、できるだけこれまでの地域とのかかわりを継続した」(16.2%)、「保護者に地域への配慮などについて説明し、協力を要請した」(16.2%)、「特に何も行っていない」(17.3%)
- ❖ 「その他」:「訪問していた老健施設へ訪問出来ないかわりに、子どもたちからの手作りプレゼントや手紙などを職員が届ける」、子どもの様子等を「園だより」や「地域のコミュニティ新聞」、「コミュニティーセンターを通して」積極的に伝える、「機会をみつけてはコロナ収束後のことを願います」、こ保幼小の連携では「子ども同士の交流は見合わせたが、管理職や職員は機会を捉えて交流」
- ❖ 「その他」:「地域の事業者卒園児関係)の方からマスク等の衛生用品の提供」

➤ 多様な取組

- ✓ これまでと異なった内容や方法でのかかわり、メディアや組織の活用

➤ 地域からの支援の提供

V 行事等について

1 行事の実施について

(1)コロナ下における行事の実施状況について(表Ⅴ-1参照)

- ❖ 「できるだけ中止は避け、内容や方法、時期を変更して実施した」(75.0%) + 「カリキュラムレベルで行事の見直しを行い、行事のあり方や精選を行い実施した」(15.6%) ⇒ 90.6%<実施>

➤ 内容の精選、工夫により可能なかぎり実施

- ✓ 行事は子どもたちの成長・発達に欠かすことのできないもの、保護者にとっても子どもたちの成長・発達を理解し、それを保育者と共有していくために必要という理念
- ✓ 行事の精選・見直しは、行事の目的や必要性を職員が議論を重ねる中で今後の保育計画や実施・評価への大きな学びに

(2)具体的な行事の実施状況について(表V-2参照)

❖ 60.0%以上のもの

- ◎ 従来の内容や方法で実施⇒「避難訓練」「飼育・栽培・収穫体験」「健康診断・各科検診」
- ◎ 内容や方法、時期を変更して実施⇒「入園式(入所式)」「卒園式」「始業式」「終業式」「誕生会」「運動会」「発表会」「交通安全指導」「遠足」「保育参観」「お別れ会」「園外保育」「飼育・栽培・収穫体験」「健康診断・各科検診」「夏祭り」「地域連携に関する活動」「制作展」「音楽発表会」「園庭開放」

❖ 実施されなかったもの

- ◎ 「敬老会・高齢者と関わる活動」「保幼小連携に関する活動」「夏祭り」「地域連携に関する活動」「お餅つき」「園庭開放」

- 屋外などでの比較的感染の危険性の低い行事・活動は、従来の内容・方法で実施
- 子どもの園生活の節目となる行事や感染リスクの低い行事等は、内容や方法、時期を変更して実施。
- 高齢者や園外の多くの人とのかかわりや食物の提供を伴う行事などは、実施を見合せ

(3)コロナ下での行事等の実施で最も工夫した行事について(複数回答可)

- ❖ 「運動会」(53.1%)、「発表会」(18.4%)、「夏祭り」(5.8%)、「保育参観」(5.8%)など

➤ 運動会に関する工夫

- ✓ 「実施場所の変更」「短時間で実施」「入替制で実施」
「学年やクラス毎、幼稚園のみでの実施」「内容の精選・変更」
「子どものみでの実施・後日DVD配布」「webで動画配信」
「同伴者の人数制限」「感染防止の合理的配慮」「参加の同意書記入」
「演技する子どもと観覧する子ども・保護者の観覧場所の分離」
「あり方の見直し(一定期間体を動かして遊ぶ期間を設け、それを動画や画像で保護者へ配信し、子どもの成長について教育的な観点から説明を加えた)」など

□ まとめ

❖ 保護者との関わり

- ◎ 時間的变化は、対面では短くなり、対面以外は変わらないとの回答が多かった。この違いは、対面での関わりの制限を間接的方法等の工夫により補完された結果と考えられる。
- ◎ 内容的変化は、量的・質的な減少・低下と量的減少、質的高まりが同程度の割合であったが、量的減少は顕著でそれを質的高まりで補おうとする取組の成果と考えられる。
- ◎ 家庭訪問は中止・無期延期の割合が高かったが、時期・方法を変え直接訪問以外で実施されており、家庭との連携を大切にする考えの表れと捉えられる。
- ◎ 保護者会・PTA活動も同様な意図で時期や方法を変えて実施されている。
- ◎ 保護者会や懇談会なども分散・少人数、合理的な配慮により実施されている。しかしながら、保護者との連携では保護者間の関係づくりや詳細な情報共有の困難さなどの問題が生じた。

❖ 地域との関わり

- ◎ 機会は大幅に減少したものの関係性は変わらないとの回答も多く、これまでの関係性が確かなものであったことの証と思われる。これらの関係性の維持は、登園時間や方法、人数などの配慮や園の感染対策・状況に関する積極的な情報発信、徹底した感染対策をした上での地域との関わりの継続など園の努力と工夫の結果によるものと言える。

❖ 行事等の実施

- ◎ 保育の本分を大切にし、可能な限り中止は避け、内容や方法、時期の変更、カリキュラムレベルで行事を見直し、精選して実施している。子どもの園生活の節目となる行事は、内容や方法、時期を変更して実施されている。個々の行事を丁寧に、従来の内容や方法で実施するもの、内容や方法、時期を変更して実施するもの、さらに実施しないものを選び分け、実施する(しない)ための検討を重ねられたことが想像できる。特に多くの人が集う行事の実施には、多大なご苦勞が拝察される。

❖ 今後に向けて

- ◎ 園と保護者、地域などを結ぶ関係性の維持・構築においては平素の関係づくりが重要である。また、情報の共有が大きな意味をもつことから、内容も含め日常的に相互のシステム構築が求められよう。
- ◎ 行事は、子どもたちのみならず保護者や地域にとっても「育ち」や「育て」、絆を育てていく上で重要な役割を担っている。コロナ禍での行事等が大いに制限を受けたが多くの学びもあり、必要性も含め計画段階でカリキュラムレベルでの行事の精選など抜本的な見直しが求められよう。
- ◎ コロナ禍における制限下にあって、保育の実施・展開のみならず園と保護者、地域、機関などとの関係性維持においてもこれまでの見直しを含め、ICT等の活用等イノベーションを図ることも求められよう。
- ◎ 今後のコロナ感染状況は各波により対応が異なることも予想されるが、基本となる保育や行事の実施、地域とのかかわり等について実施や方法・内容等に関するガイドラインの必要性の検討が求められよう。

❖ 課題研究において今後検討すべき事項

◎ 本発表の結果については、園の所在する地域差、園・施設、規模による顕著な違いは把握されなかった。しかしながら、以下の点についてはさらに検討を必要とする傾向がみられた。

- ①保護者とのかかわりの時間的変化と園・施設の規模
- ②保護者とのかかわりの内容的変化と地域、園・施設の種類、園・施設の規模
- ③家庭訪問の実施状況と園・施設の種類、園・施設の規模
- ④保護者会・PTA活動の実施状況と園・施設の種類など

ご清聴ありがとうございました。

日本保育学会 第75回大会 課題研究会シンポジウム
研究報告 資料

コロナ下における保育と子どもの育ちを考える I
—予備調査から明らかになったこと—

保護者対応や地域との関わりおよび
行事等の状況について

課題研究委員 神戸女子大学 三宅茂夫

IV章

表IV-1 コロナ下での保護者とかかわる時間的な変化

(対面のみの場合)

	度数	%	
①とても短くなった	28	13.3	67.1
②短くなった	113	53.8	
③変わらない	67	31.9	
④長くなった	1	0.5	1.0
⑤とても長くなった	1	0.5	
合計	210	100.0	

表IV-2 コロナ下での保護者とかかわる時間的な変化

(対面・オンライン・電話等を含めた場合)

	度数	%	
①とても短くなった	4	2.0	26.9
②短くなった	51	24.9	
③変わらない	136	66.3	
④長くなった	14	6.8	6.8
⑤とても長くなった	0	0.0	
合計	205	100.0	

表IV-3 保護者とかかわりの内容的な変化

	度数	%
①量的にも、質的にも減少・低下した	59	27.8
②量的には減少したが、質的には高まった	55	25.9
③量的には増加したが、質的には低下した	2	0.9
④変わらない	88	41.5
⑤その他	8	3.8
合計	212	100.0

表IV-4 保護者とのかかわりの内容的な変化と時間的な変化の連関

	①質的にも、量的にも減少・低下した		②量的には減少したが、質的には高まった		③量的には増加したが、質的には低下した		④変わらない		⑤その他		合 計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
①とても短くなった	0	0	4	2.0	0	0	0	0	0	0	4	2.0
②短くなった	27	13.2	16	8.8	1	0.5	6	2.9	1	0.5	51	25.0
③変わらない	24	11.8	27	13.2	0	0	77	37.8	7	3.4	135	66.2
④長くなった	6	2.9	4	2.0	1	0.5	3	1.5	0	0	14	6.8
合 計	57	27.9	51	25.0	2	1.0	86	42.2	8	3.9	204	100.0

表IV-5 家庭訪問の実施状況

	度数	%	
①中止・無期延期	78	37.0	
②通常通り実施	8	3.8	28.0
③時期を変えて実施（直接訪問）	4	1.8	
④時期や方法を変えて実施（直接訪問以外）	47	22.3	
⑤コロナ以前から実施していなかった	61	28.9	
⑥その他	13	6.2	
合 計	211	100.0	

表IV-6 保護者会・PTA活動の実施状況

	度数	%	
①活動の凍結	22	10.3	
②通常通り実施	19	8.9	79.3
③時期を変えて実施（直接訪問）	71	33.3	
④時期や方法を変えて実施（直接訪問以外）	79	37.1	
⑤コロナ以前から実施していなかった	14	6.6	
⑥その他	8	3.8	
合 計	213	100.0	

表IV-7 保護者とのかかわりで工夫した点（複数回答可）

	度 数	% (度数/213)
①オンラインでの保護者総会や保育参観の開催	22	10.3
②保育参観の分散・少人数による実施	166	78.0
③登園・保育・行事等の事前・事後の保護者への丁寧な説明会の開催 (強制を伴わない)	41	19.2
④子どもの様子などについて、定期的な電話等による家庭への連絡	33	15.5
⑤気持ちに寄り添った懇談の機会確保のため、面談形式による懇談会の実施	72	33.8
⑥「滞在時間を短く」「できるだけ話を最小限に」するなど合理的なかかわりへの配慮	132	62.0
⑦特に何も行っていない	4	1.9
⑧その他	19	8.9
合 計	489	—

表IV-8 保護者との連携の状況が与える影響（複数回答可）

	度 数	% (度数/213)
①園と保護者との意思の疎通が難しくなった。	44	20.7
②園の保育方針や理念、保育者の保育観等を伝える機会が減少し、理解者を増やすことが難しくなった。	53	24.9
③子どもの園や家庭での様子、子どもの育ちの状況について、互いの詳細な情報共有が難しくなった。	64	30.0
④子どもの育ちに向けた保護者と園、保育者との連携が難しくなった。	42	19.7
⑤保護者間の関係づくりが難しくなった。	72	33.8
⑥これまでと変わらない	74	34.7
⑦その他	8	3.8
合 計	357	—

表IV-9 地域とのかかわりの機会の変化

	度数	%	
①とても増加した	0	0	0
②増加した	0	0	
③変わらない	7	3.3	95.7
④減少した	93	44.3	
⑤とても減少した	108	51.4	
⑥その他	2	1.0	
合 計	210	100.0	

表IV-10 地域との関係性の変化

	度数	%	
①とてもよくなった	1	0.5	1.0
②よくなった	1	0.5	
③変わらない	185	87.3	
④悪くなった	16	7.5	8.0
⑤とても悪くなった	1	0.5	
⑥その他	8	3.8	
合計	212	100.0	

表IV-11 地域との関係性の変化の理由

	度数	%
①行事や活動の縮小などにより、園が地域からの支援やかかわりを制限した。	119	60.4
②感染拡大の不安から、地域から園への要望や苦情が増加した。	2	1.0
③地域一体となった園への支援が活発化した。	1	0.5
④園から地域にそれまで以上の積極的なかかわりを実施した。	5	2.5
⑤これまでと変わらない	60	30.5
⑥その他	10	5.1
合計	197	100.0

表IV-12 地域とのかかわりにおいて工夫した点（複数回答可）

	度数	%
①園の感染対策や感染状況を積極的に地域へ情報発信を行った。	52	18.7
②窓口を設け、地域からの要望や苦情に対して対応を行なった。	2	0.7
③感染対策を徹底した上で、できるだけこれまでの地域とのかかわりを継続した。	45	16.2
④保護者に地域への配慮などについて説明し、協力を要請した。	45	16.2
⑤登園時間や方法、人数などについて配慮した。	73	26.3
⑦特に何も行っていない	48	17.3
⑧その他	13	4.7
合計	278	100.0

V章

表V-1 行事の実施状況

	度数	%
①コロナ下以前と変わらず実施	0	0
②できるだけ中止は避け、内容や方法、時期を変更して実施	159	75.0
③多くの行事を中止し、可能なものは従来の内容で実施	18	8.5
④カリキュラムレベルで行事の見直しを行い、行事のあり方や精選を行い実施	33	15.6
⑤その他	2	.9
合 計	212	100.0

表V-2 具体的な行事の実施状況（複数回答可）

	従来の方法や 内容で実施		内容や方法、 時期を変更し て実施		実施されな かった		従来から 実施なし		合計	
	度数	%	度 数	%	度 数	%	度数	%	度数	%
①入園式（入所式）	4	1.9	197	93.8	5	2.4	4	1.9	210	100.0
②卒園式	5	2.4	204	97.1	0	0	1	0.5	210	100.0
③始業式30	30	14.6	139	67.5	5	2.4	32	15.5	206	100.0
④終業式	32	15.5	134	65.0	5	2.4	35	17.0	206	100.0
⑤誕生日会	37	17.5	162	76.8	2	0.9	10	4.7	211	100.0
⑥夏祭り	2	1.0	113	54.1	59	28.2	35	16.7	209	100.0
⑦宿泊保育（キャンプ）	2	0.9	20	9.5	15	7.1	174	82.5	211	100.0
⑧運動会	2	0.9	208	98.6	0	0	1	0.5	211	100.0
⑨避難訓練	131	62.1	77	36.5	3	1.4	0	0	211	100.0
⑩発表会	1	0.5	203	97.1	3	1.4	2	1.0	209	100.0
⑪制作展	0	0	61	29.2	11	5.3	137	65.6	209	100.0
⑫音楽発表会	0	0	70	33.3	10	4.8	130	61.9	210	100.0
⑬交通安全指導	35	16.7	130	62.2	28	13.4	16	7.7	209	100.0
⑭遠足	4	1.9	164	77.7	40	19.0	3	1.4	211	100.0
⑮保育参観	1	0.5	176	83.8	28	13.3	5	2.4	210	100.0
⑯健康診断・各科検診	55	26.1	155	73.5	1	0.5	0	0	211	100.0
⑰お別れ会	11	5.2	177	83.9	13	6.2	10	4.7	211	100.0
⑱園庭開放	7	3.3	54	25.8	99	47.4	49	23.4	209	100.0
⑲園外保育	15	7.1	181	85.8	11	5.2	4	1.9	211	100.0
⑳保幼小連携に関する活動	3	1.4	131	62.4	68	32.4	8	3.8	210	100.0
㉑地域連携に関する活動	3	1.4	90	43.3	106	51.0	9	4.3	208	100.0
㉒敬老会・高齢者と関わる活動	0	0	25	11.8	164	77.7	22	10.4	211	100.0
㉓飼育・栽培・収穫体験	112	53.1	96	45.5	2	0.9	1	0.5	211	100.0
㉔お餅つき	7	3.3	32	15.2	101	47.9	71	33.6	211	100.0

3 職員間の関わり・職員対応について

花輪 充

質問紙調査の自由記述から、①コロナ禍における職員間の関わりを対話、協同、業務遂行の視点より、②職員対応については、職員の交流、連携、モチベーション維持のための方略の視点より考察した。

①については、これまででない業務量をこなしながらも、いかに他の職員とコラボレーションしていけばよいか、その一点に凝縮されていたように思う。マスクによる対話、ソーシャルディスタンスの常態化が求められる中、これらを達成するために負うべきストレスは計り知れない。そうした中、職員同士が話し合い、伝え合い、工夫し合い、協力し合うことを訴える「共に支え合い、協力し合っていく」といったスローガンを目にした。やりにくさや過ごしにくさを逆手にとって、保育内容等を見直す機会と捉え、話し合いや共有の機会をこれまで以上に行っていこうとするその姿勢には、コロナ禍に負けず、最善の保育のあり方を追求しようとする業務に対する情熱と責任感を感じる。②については、職員間のコミュニケーションの機会の減少を、Web を活用しての連絡会、相談会、研修等を通して乗り越え、職員が孤立しないようにする配慮を感じた。内容にも親睦的な要素をもたせ、互いに必要なことを伝え合い、連携を重視したあり方が実践され始めているようだ。職員のモチベーションの維持・向上についても、「先が見通せないコロナ対応で気持ちが落ち込まないように、ICT 活用をはじめ新しい方略のチャレンジを取り上げ…」 「コロナ対応で気持ちが落ち込まないように、職員に積極的にコミュニケーションを図ることを心掛け、労いの言葉を掛けるように意識している」といった、組織としてのリフレッシュのあり方の模索が確実に始まっている。

日本保育学会第75回大会 課題研究委員会シンポジウム

コロナ下における保育と子どもの育ちを考える I — 予備調査から明らかになったこと —

職員間の関わり・職員対応について

東京家政大学 花輪 充

1. はじめに

—— コロナ禍が続く中、日々感染のリスクと闘いながら、多くの保護者や子どもと関わって、子どもたちの保育を担っている保育者たち。その姿はメディアを通じて悲痛な叫びとして私たちの耳目に入ってくる。

—— 保育者の負担は半端ではない。玩具消毒、室内備品の除菌、換気などの業務等が通常業務に加わり、負担の増加は収まる気配さえないといえよう。

—— そうした中、保育者たちはいかにして、保育業務に対峙しているのだろうか。この度の質問紙調査の回答から見えてきたものは、ピンチをチャンスと捉えようとする保育者たちの姿勢である。そこには、コロナ禍における子どもとの関わり、職員間のかかわりから得られた気づきや工夫、それに裏付けられた保育への探求が感じられる。

2. 目的と方法

▶青木は、**保育の場を共感的理解の場、すなわち「子どものみならず、保護者・保育者の様々な対話を生み出す」**¹⁾ 場と捉えている。

→ このことは、「実習生として参加する学生やボランティア、地域の人々も同様であり、保育の場に参加する参加者全員の対話による豊かな学び・育ちを保障すると言える。

(中略) **子どもだけが理解され、学び、育つのではなく、ともに生活する保育者自身も理解され、学び、育つのではないか。質の高い実践の場とは、そこに参加するすべての者が対峙し、互いに学び合う場として位置づいているのではないか**²⁾ と提言している。

→ それは、秋田らの唱える**「民主的対話空間としての多声的対話空間」**³⁾ **「共感的理解の場であり、互いの育ちを支え合う場」**⁴⁾ として、その機能はこれまで順調に稼働してきたといえよう。

新型コロナウイルス感染症の猛威に晒されるまでは・・・。

▶保育界においても新型コロナウイルス感染症の蔓延は、子ども、保護者、保育者に底知れぬ不安と難題を突き付けた。特に、コミュニケーションの営みを遮られることは、ヒト・モノ・コトとの繋がりを尊ぶ保育という仕事にとって息苦しさともなりかねない。果たして、彼らは、多声的対話的空間である保育現場をいかにして守り抜いてきたのだろうか。

「VI.職員間の関わり・職員対応について」では、

→ コロナ禍における職員間のコミュニケーションに焦点をあて、

- 1) 対話、
- 2) 協同、
- 3) 業務遂行、
- 4) 職員間の交流、
- 5) 職員間の連携、
- 6) 職員のモチベーション維持のための方略、

の6項目について質問紙調査の回答から保育者の現状を確認するとともに、ポストコロナに向けての課題を明らかにしていきたい。

調査内容（質問紙内容）について

「Ⅵ. 職員対応・職員間のかかわり」質問紙内容

Q15. コロナ禍における職員間のかかわりについて、該当するものを1つ選び○をつけてください。また、その理由を具体的に記述してください。

1) 対話

- ① 平常時に比べ、職員間の対話が著しく増えた。
 - ② 平常時に比べ、職員間の対話が多くなった。
 - ③ 平常時と変わらない。
 - ④ 平常時に比べ、職員間の対話が少なくなった。
- 理由（内容を具体的に記述ください）

2) 協同

- ① 平常時に比べ、職員間による協同の機会が著しく増えた。
 - ② 平常時に比べ、職員間による協同の機会が増えた。
 - ③ 平常時と変わらない。
 - ④ 平常時に比べ、職員間の協同の機会が少なくなった。
- 理由（内容を具体的に記述ください）

3) 業務遂行

- ① 平常時に比べ、職員間による役割や分担が著しく増えた。
 - ② 平常時に比べ、職員間による役割や分担が増えた。
 - ③ 平常時と変わらない。
 - ④ 平常時に比べ、職員間による役割や分担が少なくなった。
- 理由：（内容を具体的に記述ください）

Q16. コロナ禍における職員対応について、園として、また一保育者として努力・工夫されていることについて、該当するものを1つ選び○をつけてください。また、その理由を具体的に記述ください。

(4) 職員間の交流

- ① 平常時に比べ、職員間の交流を積極的に推進している。
 - ② 平常時に比べ、職員間の交流を推進している。
 - ③ 平常時と変わらない。
 - ④ 平常時に比べ、職員間の交流が抑制されている。
- 理由（内容を具体的に記述ください）

(5) 職員間の連携

- ① 平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を積極的に取り入れている。
 - ② 平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を取り入れている。
 - ③ 平常時と変わらない。
 - ④ 平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会が不足している。
- 理由（内容を具体的に記述ください）

(6) 職員のモチベーション維持のための方略

- ① 平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために積極的な策を講じている。
 - ② 平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために策を講じている。
 - ③ 平常時と変わらない。
 - ④ 平常時に比べ、職員のモチベーションを維持する機会が不足している。
- 理由（内容を具体的に記述ください）

3. 結果と考察

213人から回収した調査内容（質問紙内容）を項目ごとに分析した結果と考察。

キーワード！

① 56.1%：平常時と変わらない

職員間の対話を、「情報共有」「共通理解」「幼児理解」といったコミュニケーションの根幹を成す営みとし、開かれた関係をもたらす機会と理解するコメントが多い。

② 24.1%：平常時に比べ、職員間の対話が多くなった

職員間において、感染症対策、保育内容や方法、行事・カリキュラムを含め、相互理解のための対話（話し合い）の機会が増えたこと、当たり前を見直し、イレギュラーな対応措置に関するコメントが多い。

③ 15.6%：平常時に比べ、職員間の対話が少なくなった

職員間での交流機会（打ち上げ・会食等）が減少したこと、職員が集まらない時間が増えたこと、Zoomでの会議が多くなり、黙食の励行に伴い何気ない話をするような機会が減少したことなどのコメントが多い。

④ 4.3%：平常時に比べ職員間の対話が著しく多くなった

平常時に比べ、感染対策を踏まえた上での、保育内容・方法（行事や活動の進め方、普段の保育の捉え方等）に関する対話機会の増加に対するコメントが多い。

(1) 「対話」に関して

1) 対話

- ① 平常時に比べ、職員間の対話が著しく増えた。
- ② 平常時に比べ、職員間の対話が多くなった。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員間の対話が少なくなった。



(1) 「対話」を考察する

▶自由記述には、「マスクをしての対話になるが、あまり時間的に変わらない」「マスク着用で、換気をし、昼食での黙食以外は、変わらない」「マスクして会話し、コロナ状況下で話し合いすることが多くなった」「以前と同様、分からないことなどその都度確認しながら、共通理解のもと進めていくようにしている」「今までとは違った形での保育の内容や方法、時期などの話し合いが多くなった」などあるが、決して迷走して書いたものではない。

→ 彼らにとって平常時とは、**嘗てのことではなく、今置かれている現実そのものを指す**のだろう。**コロナ禍に身を置く中で涵養されてきた保育姿勢とも保育者力ともとれるもの**に違いない。

▶コロナ時代の新たな働き方（ニューノーマル）を示すものとも解釈できる。「マスクによって話しにくくはなったが、対話が少なくなることはなかった」という文言にはどこか余裕さえ感じる。

→ それは、**不自由とも思える日々に身をおき、捨て身になって子どもたちと対峙した者だからこそ言える言葉ではないか。**

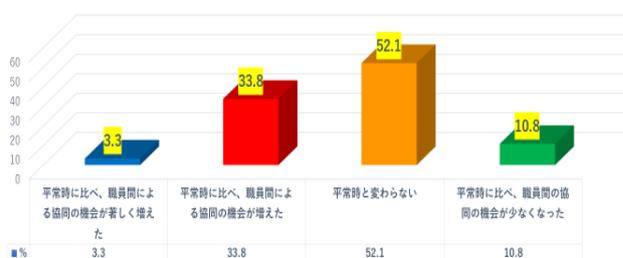
(2) 「協同に関して」

キーワード！

②協同

- ①平常時に比べ、職員間による協同の機会が著しく増えた。
- ②平常時に比べ、職員間による協同の機会が増えた。
- ③平常時と変わらない。
- ④平常時に比べ、職員間の協同の機会が少なくなった。

(2)協同



①52.1%：平常時と変わらない

コロナ禍に関係なく、「協力して保育を行う姿勢」「チームとしての職員意識」「話し合いによる共通理解と助け合いの精神」とするコメントが多い。

②33.8%：平常時と比べ、職員間による協同の機会が増えた。

「最良の策について職員の意見を集約する」「職員間で考えを出し合い、連携して業務に取り組む」「話し合いなど共通理解の機会を増やす」など、協同する機会が増えたことに関するコメントが多い。

③10.8%：平常時と比べ、職員間の協同の機会が少なくなった

感染予防等のために協同・交流の機会が減少したといったコメント以外に、コミュニケーションの不具合から「協同の機会が少なくなったか、持ちづらくなった」とするコメントがあった。

④3.3%：平常時と比べ、職員間の協同の機会が著しく多くなった。

コロナ禍といった非常事態の中で、職員間で仕事のやり方を工夫したり、配慮すべき事柄を考えたり、助け合いの方略を検討するなどのコメントが目につく。

(2)「協同」を考察する

▶職員間による協同の機会が増えた要因が、**コロナ禍において、何が最良の取り組みであるのかを職員全員で意見を出し、話しあい、共有しあいながら日々の保育に取り組んだこと**と推察できる。

▶「安全な生活の確保のため、教職員間で考えを出し合う必要があった」「自粛期間には環境整備や教材研究など、共同ですることが増えた」「遊ぶ時間が増え、全職員で子どもを見守る機会が増え、情報交換することが増えた」「行事の見直し等で意見交換する機会が増えた」さらに「共に支え合い、協力し合っ動くようになった」と言わしめるものごとの流れが、**コロナ禍においてより職員間の連携を強める動機になった**ともいえるだろう。

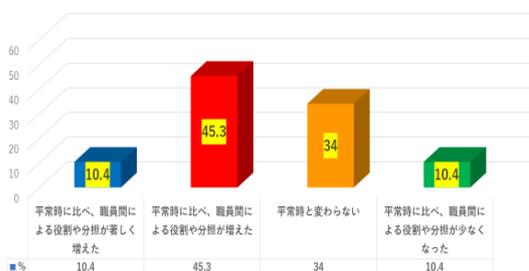
(3)「業務遂行」に関して

キーワード！

③業務遂行

- ① 平常時に比べ、職員間による役割や分担が著しく増えた。
- ② 平常時に比べ、職員間による役割や分担が増えた。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員間による役割や分担が少なくなった。

(3)業務遂行



①45.3%：平常時と比べ、職員間の役割や分担が増えた。

平常時に比べ、感染症対策（消毒作業、掃除、換気）に加え、保育環境の整備、保育内容・方法・行事等の練り直し、市への報告文書作成・提出等）の業務が大幅に増えた！

②34%：平常時と変わらない

コロナ禍にあってもやるべきことはかわらない、冷静沈着に状況の変化に対応しようとする姿勢がみてとれる。キーワードは「助け合いのシステム」「話し合い」「保育内容・方法の検討」、「職員のパートナーシップ」となるのか。

③10.4%：平常時と比べ、職員間による役割や分担が著しく増えた

コロナ対策（感染対策、保育活動の見直しなど）の仕事量に加え、ICT活用（情報発信等）にかかわる仕事や事務手続き（給食費返金・帳簿の記入など）の作業の激増など。

④10.4%：平常時と比べ、職員間の役割や分担が少なくなった

主な理由として、行事内容等の見直しによる精選と縮小があげられる。また、働き方改革による新体制の構築（新たな役割分担体制等を含む）も影響を与えているといえる。

(3) 「業務遂行」を考察する

- ▶ここでは、②の職員間による役割や分担が増えた要因に着目したい。
→ 回答者の理由文には苦悶ととれる文言が並ぶ。何はともあれコロナ対策の業務である、「玩具、遊具、机、いす、保育室他施設内の消毒作業」「市への報告文書作成」「感染症対策や、新しいやり方の模索、打ち合わせ」「罹患者や濃厚接触者への対応」それに加え、毎日の園児の体温チェックと消毒、保護者への感染防止協力依頼など、**これまででない業務量をこなさざるを得なくなった**のである。
- ▶一方、働き方改革によって、「多様で柔軟な働き方の実現」に向けて動き出したところもあり、**新しい役割分担の体制づくり、パート先生の人数的見直し、仕事範囲の拡大、保育へのフォローと増員と改革の輪は広がりつつある。**

(4) 「職員間の交流」に関して

キーワード！

4 職員間の交流

- ① 平常時に比べ、職員間の交流を積極的に推進している。
- ② 平常時に比べ、職員間の交流を推進している。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員間の交流が抑制されている。



① 47.9%：平常時と変わらない

交流の機会を「情報交換」「保育の振り返り」としているが、現実的には、「心の距離を開けないとする重要なコミュニケーションの機会」と捉えているのだろう。何気ない会話が不安を癒す営みとなっているのだろう。

② 34.3%：平常時に比べ、職員間の交流が抑制されている

園によって事情は異なるが、コロナの感染拡大防止を意識して、職員一人一人が自粛することを受け入れていることがわかる。抑制されているという意識よりも自粛を当然とする気概がコメントから読み取れる。

③ 12.7%：平常時に比べ、職員間の交流を推進している

コロナ禍だからこそ、創意工夫する中で、「情報交換」「連携」「保育の振り返り」「改善と質の向上」について話し合う機会が必要であるといった主張であろう。

④ 5.1%：平常時に比べ、職員間の交流を積極的に推進している

ICTを活用した情報共有や連携の強化や人数制限をしながらの研修・交流に関するコメントなど、ポストコロナを睨んでの動きがはじまったととれる。

(4) 「職員間の交流」を考察する

▶ここでは、コロナ禍によって歪んでしまった職員間の交流について回答者から理由文が寄せられている。

→「コロナ禍により職員研修旅行や懇親会ができない」「互いにコミュニケーションを取る機会が減ったと感じる」「勤務時間外の会や食事などは行わなくなった」「食事会の減少、会議の短時間化」「大人数での会議がなくなったり、リモートになった」「歓送迎会等の行事が中止、打ち上げ慰労会や親睦会行事の中止」「直接的な交流は先送り」など、一見、奔放に感ずる文言であるが、**実は人間がリフレッシュする上で大事にされなければならないことばかりである。**

▶**コロナ禍の発想ではないと一蹴するのではなく、新たな計画を共に模索してあげられるような寛大さが今後組織には求められるのではないか。**

(5) 「職員間の連携」に関して

キーワード！

⑤職員間に連携

- ① 平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を積極的に取り入れている。
- ② 平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を取り入れている。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会が不足している。

① 48.8%：平常時と変わらない

平常時から職員間の連携に常に努めているといった保育機関が多い。いかなる状況下においても、話し合い、報告し合い、相談し合える連携の体制をとれているとするメッセージは長年において築かれたものであろう。たとえコロナ禍にあってもそうでなくても変わらないとするコメントからは園のプライドを感じる。

② 31.9%：平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を取り入れている

職員が安心して保育に向かうには、意見交換・情報共有を通じての共通理解が必要になってくる。日々刻々と変化しているコロナ感染症に立ち向かうにはまさに正確な情報の共有と職員の連携が求められる。

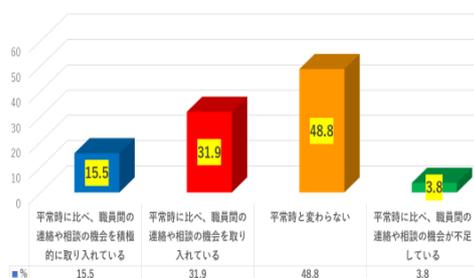
③ 15.5%：平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を積極的に取り入れている

コロナ禍において職員のストレス軽減は喫緊の課題である。職員間の連絡や相談の機会を取り入れる中で個別面談、ケア・ミーティングを開催することは組織の質を保持するためにも大事な取り組みと言えよう。

④ 3.8%：平常時に比べ職員間の連絡や相談の機会が不足している

職員間の連絡や相談の機会が途絶えているところもある。コミュニケーションの機会が閉ざされているのか、思いを交流する機会が少ない、翌日の打合せさえ時間がとれないとのコメントに象徴されるように建設的な検討が求められるのではないか。

(5)職員間の連携



(5) 「職員間の連携」を考察する

▶ここでは、③の項目に着目したい。

→ 保育者同士の十分なコミュニケーションと連携が、豊かな教育場面を創起させる時、**保育者間の連絡や相談の機会はその営みにとって欠かせぬ手続き**となる。

▶回答者は理由文の中で、「必要なことは連携しあう」「いつも連携については心掛けているため」「必要なことや、共通理解することを考えて伝えるようにしている」と説き、保育における連携に対する意識が大切な事はコロナ禍でもコロナ前でも変わらないと主張しているが、「**コロナ禍だとしても、子どもたちの育ちを支えるために連携は必要であるから**」といった文言は実に直接的である。

▶また、「相談はいつもできる体制を整えている」といったメッセージには心強さを感じる。**若手保育者にとっては、何事をも相談できる環境が必要**なのだから。

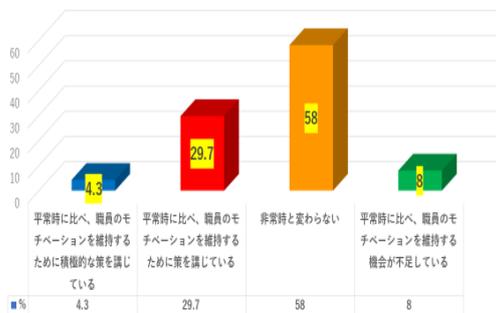
(6) 「職員のモチベーション維持のための方略」について

キーワード！

⑥職員のモチベーション維持のための方略

- ① 平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために積極的な策を講じている。
- ② 平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために策を講じている。
- ③ 非常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員のモチベーションを維持する機会が不足している。

⑥職員のモチベーション維持のための方略



① 58%：平常時と変わらない

「当たり前を見なおしていく」「切磋琢磨していく」「仲間との会話を大切に」など、個人によってモチベーションの維持の仕方はちがうが、**日常の中で学びの機会を増やすなど、地道な営みがモチベーションの維持・向上に繋がっている**ようである。

② 29.7%：平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために策を講じている

仕事の成果を可視化したり、**職員間の連携を深めるためにミーティングを開き、共感的声掛けをしたり、労ったり、感謝を表わしたり、対話的コミュニケーションの機会をもつ。**

③ 8%：平常時に比べ、職員のモチベーションを維持する機会が不足している

「**正当な評価を受けづらい**」「**コロナ感染に振り回されてやりたいことが実行できない**」「**保護者から心無い言葉をかけられる**」「**研修機会の減少**」などが原因となって、モチベーションを維持できないとのコメントが目につく。

④ 4.3%：平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために積極的な策を講じている

勉強会、研修等の実施と講習料補助、メンタルヘルス、この先いかなる策を講ずることになるのか。

(6) 「職員のモチベーション維持のための方略」を考察する

▶ここでは、②の項目に着目したい。

→モチベーションは、行動を起こす契機となる刺激や意欲と解釈されている。また、モチベーションを保つには、すぐに達成できる小さな目標を立てるとか、気分転換をするとか、自分を労らうとか言われているが、**気分転換、いかに上手にリフレッシュできるかがポイント**になる。

▶③の理由文には、「感染予防のため、職員同士で語り合う場や機会の減少」や「自分が正当な評価を受けていない」、「施設消毒、行内遂行等の大変さについて保護者から心ない言葉をかけられた」といったことに塞ぎこんだりすることがあったと記してあったが、そうした時必要になってくるのが**リフレッシュに向かう気構え**であろう。

▶②の理由文からは、「仕事量が増えたので、その成果を可視化して満足感が得られるようにした」「先が見通せないコロナ対応で気持ちが落ち込まないように、ICT活用をはじめとした新しい方略のチャレンジを取り上げ、新規事業を進めるようにしている」「コロナ禍での職員のストレスを感じることがある為、モチベーション維持の為、積極的にコミュニケーションを図ることを心掛け、労いの言葉を多く掛けるように意識している」「美味しいお菓子等の差し入れを行った」といった文言を目にしたが、**多くの保育者が、モチベーションの維持に取り組み、葛藤している**ことがわかった。

4. まとめ

質問紙調査の自由記述から、

①コロナ禍における**職員間のかかわり**を対話、協同、業務遂行の視点より、

②**職員対応**については、職員の交流、連携、モチベーション維持のための方略の視点より、考察した。

①については、

・これまでにない業務量をこなしながらも、**いかに他の職員とコラボレーションしていけばよいか、その一点に凝縮**されていたように思う。

・マスクによる対話、ソーシャルディスタンスの常態化が求められる中、**これらを達成するために負うべきストレスは計り知れない。**

・そうした中、**職員同士が話し合い、伝え合い、工夫し合い、協力し合うことを訴える「共に支えあい、協力し合っていく」といったスローガンを**目にした。

・やりにくさや過ごしにくさを逆手にとって、保育内容等を見直す機会と捉え、話し合いや共有の機会をこれまで以上に行っていくとするその姿勢には、**コロナ禍に負けず、最善の保育のあり方を追求しようとする業務に対する情熱と責任感**を感じる。

②については、

・職員間のコミュニケーションの機会の減少を、webを活用しての連絡会、相談会、研修等を通して乗り越え、**職員が孤立しないようにする配慮**を感じた。

・内容にも親睦的な要素をもたせ、互いに必要なことを伝え合えあい、**連携を重視したあり方が実践され始めている**ようだ。

・職員モチベーションの維持・向上についても、「先が見通せないコロナ対応で気持ちが落ち込まないように、ICT活用をはじめ新しい方略のチャレンジを取り上げ…」「コロナ対応で気持ちが落ち込まないように、職員に積極的にコミュニケーションを図ることを心掛け、労いの言葉を掛けるように意識している」といった、**組織としてのリフレッシュのあり方の模索が確実に始まっている。**

5. 今後の課題

今回は予備調査では、質問紙調査を依頼した園の種別が、214園中、幼稚園63か所が国公立、こども園72か所が公立にであったこと、園の所在地が、214園中、香川県88園、徳島県31園、東京19園にであったこと、それによって園の規模（園児数など）などに偏りが生じ、回答内容等（自由記述等）に反映していたことは否めない。本調査を実施する際の懸案事項である。

引用文献：

- 1) 青木久子・小林紀子著「幼児教育知の探究18 領域研究の現在（表現）」第3章§2-3、萌文書林、2013、p.273
- 2) 同上、p.273
- 3) 同上、p.274
- 4) 同上、p.274-275

4 子どもの育ちを保障するためのICT等の活用、行政との連携

西山 修

コロナ下において、子どもの育ちを保障していくため、各園ではICT等をどのように捉え、どのような取組がなされたのだろうか。コロナ前とコロナ下（現在）における、園でのICT等の活用度、保育者の関心度を尋ねたところ、いずれも有意に上がっていた。活用度が上がった園に注目すると、「行事のオンライン配信により、子どもの育ちを保護者に伝える機会が増えた」「オンライン研修等への参加が増え保育者の資質向上に役立った」等の記述が見られた。コロナ対応を一つの契機と捉え、園の課題意識が反映された取組が見られる。一方、活用度に変化がなかった園では、「環境が整っていない」「知識がない」「セキュリティの不安」等の記述が多かった。子どもの育ちを保障する上でのICT等の活用に対する期待度は、現在、活用度が高い園ほど高かった。活用の仕方や必要性の捉えは様々であろうが、適時の支援が求められる。

コロナ下では情報が錯綜し、様々な判断に苦慮した園も多い。行政との連携（通知、情報提供などを含む）の重要性が改めて実感された。コロナ前とコロナ下（現在）における、行政との連携度を尋ねたところ、有意に連携度は上がったと捉えられていた。一方、行政からの情報・通知のわかり易さを尋ねたところ、変化は見られなかった。行政との連携度が低いと捉えていた園に注目すると、「保護者への説明が不十分で不安や不信感を招いた」「通知等が頻繁に送られてきて、対応の変更に疲弊した」「一方的な通知で、園との対話に欠けていた」等の記述が見られた。変異株の出現等、今後も状況が変わる度に、正確かつ迅速な情報の共有が求められる。危機対応の観点からも行政との情報共有や意思疎通は重要な課題と言える。

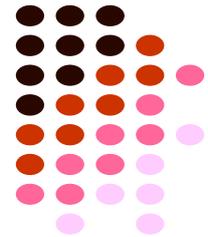
コロナ下における保育と子どもの育ちを考える I
予備調査から明らかになったこと

(4) 子どもの育ちを保障するための

② ICT等の活用

② 行政との連携

岡山大学学術研究院 西山 修



1 ICT等の活用

コロナ下において 子どもの育ちを保障していくため
各園では ICT等をどのように捉え どのような取組が
なされたのだろうか？

ここでICT (Information and Communication Technology) とは、
通信技術を活用したコミュニケーションとする





1 ICT等の活用

質問紙: VII. ICT等の活用について

- 1) 園において ICT等の活用をどのように考え 取り組まれたか？
(自由記述)
- 2) コロナ前における ICT等の活用度
- 3) コロナ下(現在)における ICT等の活用度
- 4) コロナ前における保育者のICT等の活用への関心度
- 5) コロナ下(現在)における保育者のICT等の活用への関心度
- 6) 子どもの育ちを保障する上でのICT等の活用への期待度



※Q2～Q6は0～100の得点で回答を求めた。それぞれ入力があった園を分析対象とした(n=172～179)

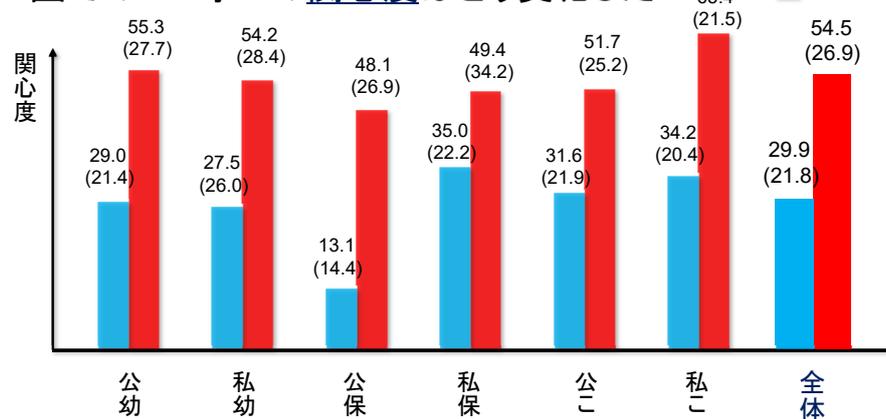
3



1 ICT等の活用



▶ 園でのICT等への関心度はどう変化した？



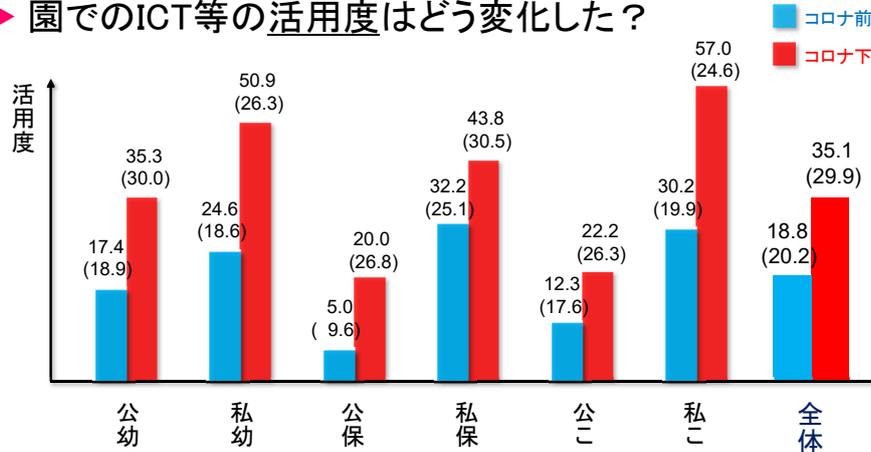
▶ コロナ下(現在)の関心度はコロナ前に比べ有意に上昇している。公立私立に関わらず高いが公保の上昇幅が大きい

4

1 ICT等の活用



▶ 園でのICT等の活用度はどう変化した？



- ▶ 園の実感として **コロナ下(現在)**の活用度は **コロナ前**に比べ有意に上昇。私立で高い傾向。標準偏差の大きさ

5

▶ 活用度が上がった園では..

※30ポイント以上アップ n=51



- 「家庭でできる折り紙や製作物、園でしているダンスや手遊び歌遊びなどのメール配信。対面の保護者懇談会が難しいので、紙ベースと話しかける映像をYouTubeで配信」(東京・私立幼)
- 「登降園の管理をICT化したり、園での様子や活動を保護者に伝える手段として使ったりしています。なかなか保護者がじっくり保育を見れなくなっているので、活用させてもらってます」(徳島・私立こ)
- 「保護者の来園機会が減ったため、保育の見える化を推進(ドキュメンテーションや動画配信)。日々の様子を写真に収めていることで、子ども達の育ちにも気づき、共有することができるように」(広島・私立こ)
- 「Zoomによるクラス別懇談会の実施」(京都・私立幼)
- 「コロナ禍において、研修等が中止・延期となっていく中で、園内でのオンラインやリモートでの研修を活用し、職員間で情報を共有することで資質向上につなげている」(香川・国公立幼)
- 「もっと様々な活用方法があるのではないかと考えておりますが、まだまだ未熟な面もあり、勉強し、情報を吸収しなければと思います。今後はICTだけではなく、対面の良さと融合させながら、何が出来るのかを模索したい」(大阪・私立幼)

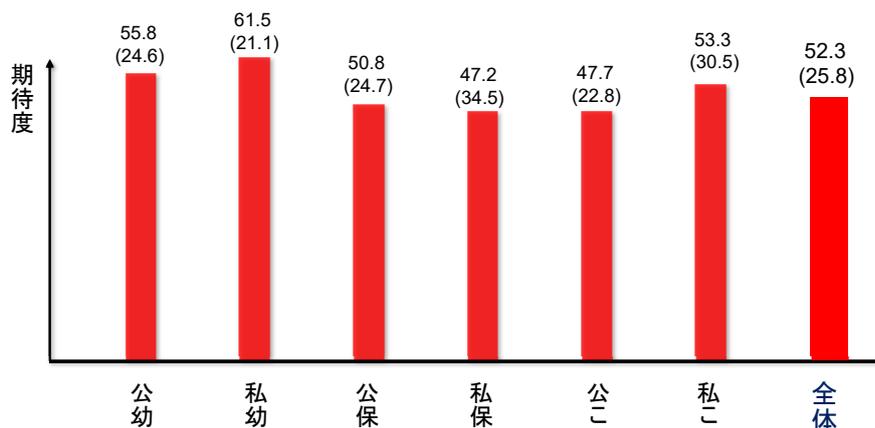
▶ 活用度に変化がなかった園では..



- 「環境が整っていないため、実際できていない」(岡山・国公立幼)
- 「まだまだこれからです。いろいろ職員間で話し合っ活用していきたいです」(香川・公立こ)
- 「園児数が非常に少ないため、今までの保育や感染対策で十分と考え、ICT等の活用には取り組んでいない。専門の技術を持った職員がいないため取り入れるのは難しい。また、機器がなく、したくてもできない」(徳島・公立こ)
- 「子どもの育ちを保障していく上で、ICTは特に必要と考えていません」(徳島・私立こ)
- 「個人情報の流出を鑑み、動画配信はしていない。写真にて活動の様子をご家庭へお伝えしている」(長崎・私立幼)
- 「どのように保育に生かしていけばいいかメリットも分かりませんが、実際に見る、触れる、聞く、匂うなど感じられる保育を大切にしたいので活用はあまり考えられません」(香川・公立こ)
- 「今のところまだ検討中で、取り組んでいない。子どもの育ちを保障することと職員の業務を減らすことで、保育に活かせる時間を増やしたい。コロナでなくても」(滋賀・私立保)



▶ 子どもの育ちを保障する上でのICT等の活用への期待度は？



▶ コロナ下(現在)の期待度は 園の種別にかかわらず 総じて高い。公保も高い

▶ カリキュラムについて ICT(動画等)の活用により 子どもの興味や発達に応じた内容でイメージを広げる工夫を行ったか？

- ①行っていない ②あまり行っていない
③行っている ④よく行っている

①～④群について **コロナ下(現在)**の関心度, 活用度, 期待度を従属変数として平均値を比較したところ..

▶ 関心度①<④ 活用度①<③④, ②<④ 期待度①<④で有意。 ∴実際にICT等を活用した経験があるほど関心度が高く子どもの発達保障への期待も高くなっている



9

2 行政との連携

コロナ下では情報が錯綜し 様々な判断に苦慮した園も多い。行政との連携(通知, 情報提供などを含む)の重要性が改めて実感された。各園では どのような課題や問題があったのだろうか？





2 行政との連携

質問紙: VIII. 行政との連携

- 1) 行政との連携について課題や問題となったことは？(自由記述・2020年4月全国一斉緊急事態宣言以降)
- 2) 緊急事態時の行政との連携において 今後 求められるものは？(自由記述)
- 3) **コロナ前**における 行政との連携度
- 4) **コロナ下(現在)**における 行政との連携度
- 5) **コロナ前**における行政からの情報・通知のわかり易さ
- 6) **コロナ下(現在)**における行政からの情報・通知のわかり易さ

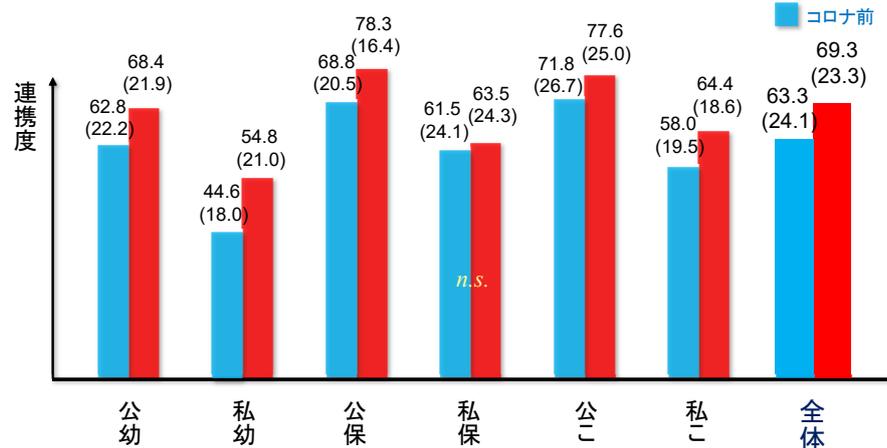


※Q3~Q6は0~100の得点で回答を求めた。

11



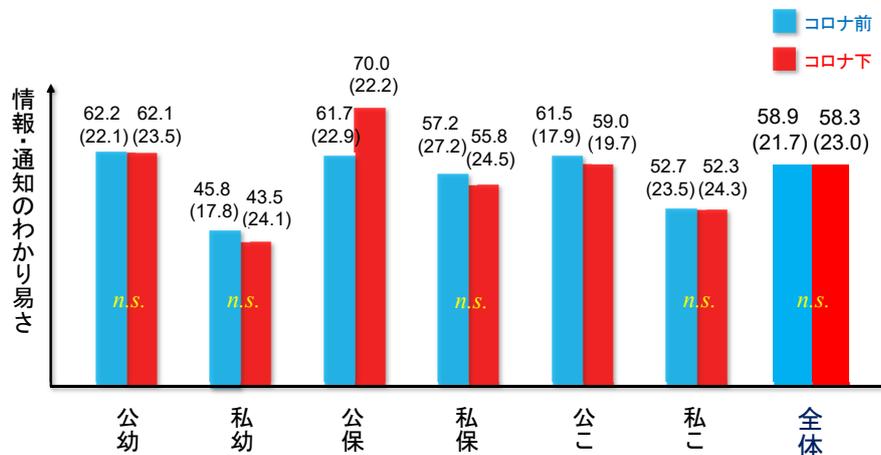
▶ 行政との連携度はどう変化した？



- ▶ **コロナ下(現在)**の行政との連携度は **コロナ前**に比べ 有意に上昇している。私保のみ有意差なし。全体的に私で低め

12

▶ 行政からの情報・通知のわかり易さは？



▶ コロナ下(現在)の情報・通知のわかり易さは コロナ前に比べ有意な違いはない

13

▶ 行政との連携度が低いと捉えていた園では..



- 「緊急事態宣言期間中等の園の利用について、行政から保護者への説明が不十分で、保護者の不安や不信感が増した。また、保護者へ方針を伝えるタイミングが直前で、より不安を煽った」(地方・国公立幼)
- 「登園自粛期間をもうけることが直前に決まり、保育の準備内容や給食の発注、返金など急を要する変更対応が必要であった」(地方・国公立幼)
- 「私学助成園のため、自園独自の行政との連携は特にありませんでした。地域の私立幼稚園と足並みを揃えることは意識しました。情報を確認してから園判断となりましたので、保護者への連絡がぎりぎりに。」(都市部・私立幼)
- 「教育委員会は私学の園に対して意識がなく、小学校での休校等の情報を入れない。保護者から情報を得て、その後、慌てて対応ということが多かった。情報共有はすべての施設で行うべき」(地方・私立小)
- 「コロナの状況が変わるたびに、行政から通知やマニュアルが頻回に送られてきた。最新の通知を保育に反映させるために今までの対応を変更することが何度もあった。現場は疲弊していった。予算も十分ではなかった。また、私立園のため、園の判断にゆだねられる場合(行事やプールの実施)も多かった」(地方・私立保)

※ご協力、ご回答をくださいました先生方に、心より御礼を申し上げます。



資 料

「コロナ下における保育と子どもの育ちに関する調査」質問紙

令和3年9月

園長・所長・施設長様

日本保育学会課題研究委員会
代表 佐々木 晃

「コロナ下における保育と子どもの育ちに関する調査」(予備調査)実施のお願い

このアンケート調査は、一般社団法人日本保育学会課題研究委員会として企画・実施しております。この調査では、新型コロナウイルス感染症発生から今日に至るまでのコロナ下での保育の状況や保護者・地域との連携、子どもの育ちや保育実践状況についてお尋ねし、問題点や解決策について明らかにしていきたいと考えております。今回は予備調査として、先生方のご回答をもとにさらに調査方法を精査して参ります。この目的をご理解いただき、調査へのご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、回答内容は統計的に処理し、結果を学会等で報告・公表する予定ですが、園名や個人情報が増えることはございません。また、アンケートへの回答は任意とし、回答いただいたことにより調査依頼に同意いただいたことと致します。

回答はGoogleフォームにより、2021年10月20日(水)までにご回答ください。
よろしくお願い申し上げます。

QRコード

(本調査の問合せ先)
日本保育学会課題研究委員会
アカウント取得予定@gmail.com

I. あなたと園について教えてください。

当てはまるもの1つに○を、また()内には適当な文字・数字を記入して下さい。

- (1) 園の所在地(都道府県名でお答えください) ()
- (2) あなたの職名 ①園長・所長・施設長 ②副園長・主任 ③その他()
- (3) 園の種別 ①公立幼稚園 ②私立幼稚園 ③公立保育所 ④私立保育所
⑤公立認定こども園 ⑥私立認定こども園 ⑦その他()
- (4) 園の規模(総園児数) ①49名以下 ②50~99名 ③100~149名
④150~199名 ⑤200~249名 ⑥250~299名 ⑦300名以上
- (5) 職員数 (正規職員数 名) (非正規職員数 名)
- (6) クラス数 (クラス)
- (7) 保育対象年齢 ①0・1歳児 ②2歳児 ③3歳児 ④4歳児 ⑤5歳児

II. 園のお子さん達の様子について

Q1. コロナ下の保育の中で気になるお子さんの様子についてお答えください。

下記の項目ごとに「①感じない ②あまり感じない ③感じる ④とても感じる」のいずれかの番号をご記入ください。

(1) 心身の健康に関すること

項 目	①～④の番号
1) 保育者や友達と触れ合う機会が減り、明るく安定感を持って行動することが難しくなった。	
2) マスクなどの着用で体を十分に動かす機会が減ってきた。	
3) マスクの着用で、咀嚼など乳幼児の食育指導が難しくなった。	
4) 衣服の着脱や食事、排泄などの自立が遅くなったと感じる。	
5) 活動が制限されたことで、危険な場所や危険な遊び方など、自分で安全に気をつけて行動する意欲が低下したと感じる。	

(2) 人との関わりに関すること

項 目	①～④の番号
1) マスクやシールドなどで表情が伝わりにくいことやスキンシップが持ちにくいことで、保育者との信頼関係が築きにくくなった。	
2) 他の子どもや保育者などとの関わりが持ちにくく、自分の感情や意思が表現にくくなった。	
3) 子ども同士のぶつかりや葛藤の機会が減った。	
4) 友達と共同の活動や共同の遊具や用具の使用の機会が減った。	
5) 小学校との交流や合同活動など連携がもちにくくなった。	
6) 高齢者をはじめ地域の人々などとの交流が少なくなった。	

(3) 身近な環境との関わりに関すること

項 目	①～④の番号
1) 感染に対する不安から、身近な環境への好奇心や探究心を発揮しにくくなった。	
2) 様々な遊具や用具、施設などの使用が十分できなくなった。	
3) 園外保育などが減り、自然体験や社会体験の機会が減った。	
4) 感染予防のため、使い捨ての物品が増え、身近なものを大切に する指導が難しくなった。	

(4) 言葉獲得に関すること

項 目	①～④の番号
1) 子どもが自分の気持ちを言葉で表現するときに「伝わりにくさ 」を感じるようになった。	
2) 人の話などの聞き取りや理解ができにくくなった。	
3) 読み聞かせや話し合いの機会が以前より減った。	

(5) 感性と表現に関すること

項 目	①～④の番号
1) 子ども同士、微妙な表情やニュアンスがわかりにくく、自己表現が伝わりにくくなった。	
2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現する機会が少なくなった。	
3) みんなで歌ったり、踊ったり、楽器を使うなどして、表現する機会が少なくなった。	

(6) 上記の他に、コロナ下の保育で気になるお子さんの姿があればご記入ください。

--

Q2. コロナ下の保育の中で、先生方が今後の子どもの育ちで不安に思っておられることについてお答えください。

下記の項目ごとに「①感じない ②あまり感じない ③感じる ④とても感じる」のいずれかの番号をご記入ください。

(1) 心身の健康に関すること

項 目	①～④の番号
1) 安心感や安定感がもてず、自己充実していけるか不安。	
2) 進んで体を動かそうとする意欲や身体の調和的な発達や運動能力の発達が不安。	
3) 衣服の着脱、食事、排泄などの自立の遅れが不安。	
4) 免疫力の低下や危険回避能力の発達が不安。	
5) 会食の楽しさや望ましい食習慣の形成が不安。	

(2) 人との関わりに関すること

項 目	①～④の番号
1) マスクやシールドなどで表情が伝わりにくいことやスキンシップが持ちにくいことから、情緒や感情の発達が不安。	
2) 幼児同士のぶつかりや葛藤、共同や協力の体験が減ったので、人とのよい関係をつくる力の発達が不安。	
3) 高齢者や地域の人々などとの交流の機会や公共施設や共同の遊具・用具の使用の機会が減り、社会性や公共性の発達が不安。	
4) 小学校との連携がもちにくくなり、小学校生活への適応について不安。	

(3) 身近な環境との関わりに関すること

項 目	①～④の番号
1) 身近な環境への好奇心や探究心の発達が不安。	
2) 様々な遊具や用具、施設などの使用ができにくくなり、手先の	

別紙1 「コロナ下における保育と子どもの育ちに関する調査」(予備調査)

巧緻性の発達が不安。	
3) 自然体験や社会体験が減った一方で、コンピューターゲームやスマホなどのICT機器の使用が増えたため、直接体験の不足で優しさやたくましさ、確かな知識、感覚等が身についているか不安。	
4) 感染予防のため、直接手で触れない習慣や使い捨ての物品が増えたため、ものを大切にする気持ちや繊細な心情が育っているか不安。	

(4) 言葉獲得に関すること

項 目	①～④の番号
1) 語彙や言葉の理解など言葉の発達が遅れないか不安。	
2) 特に乳児などは、マスクで保育者の口の動かし方が見づらい ため、発音や発声の発達が不安。	
3) 微妙な表情が伝わりにくく、言葉のニュアンスなど言語感覚 の発達が不安。	
4) 自己主張や人間関係の調整力などコミュニケーション能力の 発達が不安。	

(5) 表現に関すること

項 目	①～④の番号
1) 人との微細な表現に気づいたり感じたりする感覚の発達が不安。	
2) みんなで歌ったり、踊ったり、演奏したり、演じたりするな ど、人と共鳴する感覚や楽しさが獲得できているか不安。	
3) 共同でかいたりつくったりする中で体験するイメージの共有 や協働の楽しさが獲得できているか不安。	
4) いろいろな楽器に触れたり、多様な表現遊びを楽しむことが 十分体験できないことから、表現活動への興味や関心が偏ら ないか不安。	

(6) 上記の他に、お子さんの育ちで不安に思われることがあればご記入ください。

--

Ⅲ. 子どもの遊びや活動、生活環境等や遊び環境等について

Q3. 子どもの遊びや活動について、努力・工夫されていることをお聞かせください。

回答は、下記の項目ごとに「①行っていない ②あまり行っていない ③行っている
④よく行っている」のいずれかの番号をご記入ください。

別紙1 「コロナ下における保育と子どもの育ちに関する調査」(予備調査)

(1) カリキュラムについて

項 目	①～④の番号
1) 行事中心の保育の構成から、子ども主体の活動展開へと変え、好きな遊びやプロジェクト活動が増えてきた。	
2) 外出自粛期間に伴う運動不足・運動能力の低下の対策として、戸外で十分に身体を動かす活動を意識的に導入した。	
3) ICT(動画等)の活用により、子どもの興味や発達に応じた内容でイメージを広げる工夫を行った。	

(2) 実践上の配慮について

A. 密集回避・飛沫感染防止

項 目	①～④の番号
1) ディスタンスの確保のため小グループ、少人数活動を増やした。	
2) 園内の広い空間を利用した活動を増やした。	
3) 遊びの拠点を分散させ、集団一斉活動を減らした。	
4) エリア(保育室 ランチルーム 園庭など)ごとの定員を定め、室内遊びのコーナーを増やした。	
5) 午睡コットの距離と方向を定めた	
6) 給食や弁当における飛沫感染防止として、場や時間の「交代入れ替え制」を導入した。	
7) 給食や弁当における飛沫感染防止として「黙食」を導入した。	
8) 給食や弁当における飛沫感染防止として「透明パーテーション」を設置した。	
9) 給食や弁当における飛沫感染防止として「一方向に着席して食事」を導入した。	

B. 消毒・換気などについて

項 目	①～④の番号
1) 消毒対策として、おもちゃや遊具を厳選した。(例えば、布のおもちゃや布製品を減らし他の素材へ転換など)	
2) 換気対策として、室内での活動を減少させ、戸外活動の工夫をした。	
3) 手洗い・うがいを徹底した。	
4) 空気清浄機や抗ウイルス・菌の設備を購入した。	

(3) 上記の他に、工夫されていることがあればご記入ください。

--

IV. 保護者対応や地域との関わりについて

1 保護者との関わりについて

下記の項目ごとに該当するものを一つ選び○をつけてください。また「その他」については、具体的にその内容を記入してください。

Q4. コロナ下で保護者とかかわる時間に変化はありましたか？

1) 対面のみの場合

- ①とても短くなった ②短くなった ③変わらない ④長くなった
⑤とても長くなった ⑥その他 ()

2) 対面・オンライン・電話等を含めた場合

- ①とても短くなった ②短くなった ③変わらない ④長くなった
⑤とても長くなった ⑥その他 ()

Q5. コロナ下により、保護者とかかわりの内容に変化はありましたか？

- ①量的にも、質的にも減少・低下した ②量的には減少したが、質的には高まった
③量的には増加したが、質的には低下した ④変わらない
⑤その他 ()

Q6. 家庭訪問の実施状況についてお答えください。

- ①中止・無期延期 ②通常通り実施 ③時期を変えて実施(直接訪問)
④時期や方法を変えて実施(直接訪問以外) ⑤コロナ以前から実施していなかった
⑥その他 ()

Q7. 保護者会・PTA活動の実施状況についてお答えください。

- ①活動の凍結 ②通常通り実施 ③時期を変えて実施(直接訪問)
④時期や方法を変えて実施(直接訪問以外) ⑤コロナ以前から実施していなかった
⑥その他 ()

Q8. コロナ下における保護者とかかわりにおいて工夫された点について、該当するものを選び○をつけてください(複数選択可)。また「その他」については、具体的にその内容を記入してください。

- ①オンラインでの保護者総会や保育参観の開催
②保育参観の分散・少人数による実施
③登園・保育・行事等の事前・事後の保護者への丁寧な説明会の開催(強制を伴わない)
④子どもの様子などについて、定期的な電話等による家庭への連絡
⑤気持ちに寄り添った懇談の機会確保のため、面談形式による懇談会の実施
⑥「滞在時間を短く」「できるだけ話を最小限に」するなど合理的なかかわりへの配慮
⑦特に何も行っていない
⑧その他 ()

Q9. コロナ下における保護者との連携の状況が、園との関係や保育、子どもの育ちに与えている影響について、該当するものを選び○をつけてください(複数選択可)。また

「その他」については、具体的にその内容を記入してください。

- ①園と保護者との意思の疎通が難しくなった。
- ②園の保育方針や理念、保育者の保育観等を伝える機会が減少し、理解者を増やすことが難しくなった。
- ③子どもの園や家庭での様子、子どもの育ちの状況について、互いの詳細な情報共有が難しくなった。
- ④子どもの育ちに向けた保護者と園、保育者との連携が難しくなった。
- ⑤保護者間の関係づくりが難しくなった。
- ⑥これまでと変わらない
- ⑦その他 ()

2 地域とのかかわりについて

Q10. コロナ下により、地域との関係に変化はありましたか？下記の項目ごとに該当するものを一つ選び○をつけてください。また「その他」については、具体的にその内容を記入してください。

1) 地域とかかわる機会は、どう変化しましたか？

- ①とても増加した
- ②増加した
- ③変わらない
- ④減少した
- ⑤とても減少した
- ⑥その他 ()

2) 地域の方々との関係性は、どう変化しましたか？

- ①とてもよくなった
- ②よくなった
- ③変わらない
- ④悪くなった
- ⑤とても悪くなった
- ⑥その他 ()

3) 変化した理由について、どのようにお考えになりますか？

- ① 行事や活動の縮小などにより、園が地域からの支援やかかわりを制限した。
- ② 感染拡大の不安から、地域から園への要望や苦情が増加した。
- ③ 地域一体となった園への支援が活発化した。
- ④ 園から地域にそれまで以上の積極的なかかわりを実施した。
- ⑤ これまでと変わらない
- ⑥ その他 ()

Q11. コロナ下における地域とのかかわりにおいて工夫された点について、該当するものを選び○をつけてください(複数選択可)。また「その他」については、具体的にその内容を記入してください。

- ①園の感染対策や感染状況を積極的に地域へ情報発信を行った。
- ②窓口を設け、地域からの要望や苦情に対して対応を行なった。
- ③感染対策を徹底した上で、できるだけこれまでの地域とのかかわりを継続した
- ④保護者に地域への配慮などについて説明し、協力を要請した。
- ⑤登園時間や方法、人数などについて配慮した。

- ⑥特に何も行ってない
- ⑦その他()

V. 行事等について

1 行事の実施について

Q12. コロナ下における行事の実施状況についておうかがいします。下記の項目ごとに該当するものを一つ選び○をつけてください。また「その他」については、具体的にその内容を記入してください。

- ①コロナ下以前と変わらず実施した。
- ②できるだけ中止は避け、内容や方法、時期を変更して実施した。
- ③多くの行事を中止し、可能なものは従来の内容で実施した。
- ④カリキュラムレベルで行事の見直しを行い、行事のあり方や精選を行い実施した。
- ⑤その他()

Q13. 具体的な行事の実施状況について、従来の内容や方法で実施されたものには「1」を、内容や方法、時期を変更して実施されたものには「2」を、実施されなかったものには「3」を、従来から実施していなかったものには「4」をご記入ください。

- | | | |
|----------------|-------------------|-----------|
| ①入園式(入所式)() | ②卒園式() | ③始業式() |
| ④終業式() | ⑤誕生会() | ⑥夏祭り() |
| ⑦宿泊保育(キャンプ)() | ⑧運動会() | ⑨避難訓練() |
| ⑩発表会() | ⑪制作展() | ⑫音楽発表会() |
| ⑬交通安全指導() | ⑭遠足() | ⑮保育参観() |
| ⑯健康診断・各科検診() | ⑰お別れ会() | ⑱園庭開放() |
| ⑲園外保育() | ⑳保幼小連携に関する活動() | |
| ㉑地域連携に関する活動() | ㉒敬老会・高齢者と関わる活動() | |
| ㉓飼育・栽培・収穫体験() | ㉔お餅つき() | |

Q14. コロナ下での行事等の実施において、あなたの園で最も工夫された行事について記入してください。

(行事名:)

工夫した点

VI. 職員対応・職員間のかかわり

コロナ禍における職員間の連携はどのようになされているのか、おうかがいします。

Q15. コロナ禍における職員間のかかわりについて、該当するものを1つ選び○をつけてください。また、その理由を具体的に記述してください。

1) 対話

- ① 平常時に比べ、職員間の対話が著しく多くなった。
- ② 平常時に比べ、職員間の対話が多くなった。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員間の対話が少なくなった。

理由 (内容を具体的に記述ください)

2) 協同

- ① 平常時に比べ、職員間による協同の機会が著しく増えた。
- ② 平常時に比べ、職員間による協同の機会が増えた。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員間の協同の機会が少なくなった。

理由 (内容を具体的に記述ください)

3) 業務遂行

- ① 平常時に比べ、職員間による役割や分担が著しく増えた。
- ② 平常時に比べ、職員間による役割や分担が増えた。
- ③ 平常時と変わらない。
- ④ 平常時に比べ、職員間による役割や分担が少なくなった。

理由 : (内容を具体的に記述ください)

Q16. コロナ禍における職員対応について、園として、また一保育者として努力・工夫されていることについて、該当するものを1つ選び○をつけてください。また、その理由を具体的に記述ください。

1) 職員間の交流

- ① 平常時に比べ、職員間の交流を積極的に推進している。

- ②平常時に比べ、職員間の交流を推進している。
- ③平常時と変わらない
- ④平常時に比べ、職員間の交流が抑制されている。

理由 (内容を具体的に記述ください)

2) 職員間の連携

- ①平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を積極的に取り入れている。
- ②平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会を取り入れている。
- ③平常時と変わらない。
- ④平常時に比べ、職員間の連絡や相談の機会が不足している。

理由 (内容を具体的に記述ください)

3) 職員のモチベーション維持のための方略

- ①平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために積極的な策を講じている。
- ②平常時に比べ、職員のモチベーションを維持するために策を講じている。
- ③平常時と変わらない。
- ④平常時に比べ、職員のモチベーションを維持する機会が不足している。

理由 (内容を具体的に記述ください)

VII. ICT等の活用について

Q17. コロナ下において「子どもの育ち」を保障していく上で、貴園では **ICT等の活用**についてどのように考え、取組まれましたか。具体的な取組内容を挙げ(いくつでも結構です)、お考えや思いなどを自由にお書きください。

※ここでICT(Information and Communication Technology)とは、通信技術を活用したコミュニケーションを意味します。

-
-
-

Q18. 次のそれぞれについて、貴園の状況を0～100までの数字でご記入ください(高い場合は大きな数字。だいたいの数字で結構です)。

- 1) コロナ前における ICT 等の活用度 ()
- 2) コロナ下 (現在) における ICT 等の活用度 ()
- 3) コロナ前における 保育者の ICT 等の活用への関心度 ()
- 4) コロナ下 (現在) における 保育者の ICT 等の活用への関心度 ()
- 5) 子どもの育ちを保障する上での ICT 等の活用への期待度 ()

VIII. 行政との連携

Q19. コロナ下の保育における、行政との連携(通知、情報提供などを含む)についてうかがいます。昨年4月の全国一斉緊急事態宣言以降、行政との連携について貴園で課題や問題となったことを具体的にご記入ください(いくつでもかまいません)。

-
-
-

別紙1 「コロナ下における保育と子どもの育ちに関する調査」(予備調査)

Q20. コロナ対応を含む、さまざまな緊急事態時の行政との連携において、今後、どのようなことが求められるでしょうか。園からのご希望など、具体的に、自由にお書きください。

<ul style="list-style-type: none">• •
--

Q21. 次のそれぞれについて、貴園の状況を0~100までの数字でご記入ください(高い場合は大きな数字。だいたい数字でけっこうです)。

- 1) コロナ前における行政との連携度 ()
- 2) コロナ下 (現在) における行政との連携度 ()
- 3) コロナ前における行政からの情報・通知のわかり易さ ()
- 4) コロナ下 (現在) における行政からの情報・通知のわかり易さ ()

以上、多数の質問にお答えいただきありがとうございました。
今後、この調査内容を改善・精査して全国調査を行う予定です。
そこで最後に、この調査について答えにくい項目や改善点など、ご意見をご自由にお願
い致します。

--

ご協力、誠にありがとうございました。



発行日 2023年1月26日発行

発行者 一般社団法人日本保育学会課題研究委員会（委員長 佐々木晃）
